

仙台市文化財調査報告書第32集

# 鴻ノ巣遺跡

—発掘調査報告書—

昭和 56 年 3 月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第32集

# 鴻ノ巣遺跡

—発掘調査報告書—

昭和56年3月

仙台市教育委員会

## 序 文

七北田川（冠川）流域には長命館・松森城（泉市）・笹森城・岩切城（仙台）等多くの城・館跡が分布しており、中世時代の歴史の香を今に伝えているところといえます。なかでも、留守氏の居城と伝えられる岩切城は要害堅固な城郭として著名であります。その麓には七北田川両岸に今市を中心とする集落が発達し、河川を利用した交易場として栄えたところだとも言い伝えられています。本書で報告している鴻ノ巣遺跡は七北田川右岸に位置し、古墳時代から中世にかけての遺跡として周知されてきた遺跡であります。しかし、都市化の影響をうけ、近年宅地化が進んでいます。今回の調査も宅地造成に係る発掘調査として実施されてきたものであります。

本報告はその調査成果をまとめたものであります、調査に際しましては多くの方々の御協力を賜わりました。深く感謝申し上げます。本書が多くの方々、研究者、市民各位の参考資料となることを念じてやみません。

仙台市教育委員会

教育長 藤井 黎

## 例 言

1. 本報告書は仙台市岩切字鴻ノ巣に所在する鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書である。
2. 本文の執筆は下記のとおり分担し、編集は金森安孝が行なった。

工藤哲司……VI、VII

金森安孝……I～V、VII

3. 本報告書中の実測図のトレースは次のとおり分担した。

遺構実測製図…金森安孝、真山尚幸、小林広美

遺物実測製図…工藤哲司、金森安孝、斎藤秀寿、真山尚幸、小林広美

4. 本報告書中の写真は次のとおり分担した。

遺構写真…工藤哲司、金森安孝

遺物写真…工藤哲司、金森安孝、小林広美

5. 本報告書の土色については「新版標準土色帳」(小山、竹原：1973年)を使用した。

6. 本報告書の実測図中の方位は磁北で統一してある。

7. 遺物の分類は下記のとおりである。

### A類 土 製 品

上 師 器	A 001～100
土師質の土器	A 101～200
須 恵 器	A 201～300
中 世 陶 器	A 301～400
青 磁	A 401～500
瓦	A 501～600
そ の 他	A 601～700

### B類 金 屬 製 品

刀	B 001～100
古 錢	B 101～200

### C類 石 製 品

石 砧	C 001～100
-----	-----------

### D類 木 製 品

井 戸 枠 材	D 001～100
木 桶	D 101～200

## 本文目次

序 文	
例 言	
I 調査に至る経過	1
II 調査要項	1
III 遺跡の位置と環境	2
IV 調査の方法と概要	3
V 発見遺構	5
1. 井 戸 跡	5
2. 土 壤	17
3. 焼 土 遺 構	24
4. 溝 跡	28
5. 掘立柱建物跡	33
6. そ の 他	35
VI 出土遺物	36
1. 土 製 品	36
(1) 上 師 器	36
(2) 上師質の土器	37
(3) 須 惠 器	38
(4) 中 世 陶 器	39
(5) 青 磁	40
(6) 瓦	41
(7) その他の土製品	41
2. 金 屬 製 品	41
(1) 刀	41
(2) 古 銭	41
3. 石 製 品	43
4. 木 製 品	43
(1) 井 戸 柵 材	43
(2) 楠	43
VII ま と め	44

## 挿図・表・図版目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第1表 調査区土層註記表	10・11
第2図 調査区設定図	4	第2表 16号井戸土層註記表	11
第3図 造構配置図	6・7	第3表 井戸跡一覧表	17
第4図 調査区土層図	8・9	第4表 土壌上層註記表(1)	20
第5図 16号井戸実測図	12	第5表 土壌土層註記表(2)	22
第6図 3号井戸実測図	14	第6表 28号・30号上層、1号焼土造構	
第7図 井戸跡実測図(1)	15	土層註記表	25
第8図 井戸跡実測図(2)	16	第7表 土壌一覧表	25
第9図 井戸跡実測図(3)	18	第8表 溝跡土層註記表	31
第10図 土壌実測図(1)	19	第9表 溝跡一覧表	32
第11図 土壌実測図(2)	21	第10表 土器破片集計表	42
第12図 上層実測図(3)	23		
第13図 28号・30号上層、1号焼土造構 実測図	24	図版1 調査区全景(東より)	52
第14図 掘立柱建物跡・掘立柱列・溝跡 平面図	26・27	図版2	53
第15図 土師質の土器A101出土状況図	28	1. 調査区遠景(調査前・東より) 2. 16号井戸全景(東より) 3. 16号井戸土層(北より)	
第16図 土師器壺A004出土状況図	28	図版3	54
第17図 土師器壺A009・A010出土状況図	29	1. 井戸枠材出土状況(16号井戸・南 より) 2. 3号井戸全景(北より) 3. 木材出土状況(3号井戸・西より)	
第18図 土師器壺A011出土状況図	29	図版4	55
第19図 須恵器壺A207・A208出土状況図	29	1. 桶出土状況(3号井戸・南より) 2. 5号井戸全景(南より) 3. 6号井戸全景(東より)	
第20図 溝跡・4号旧河道土層図	30	図版5	56
第21図 古錢拓影	43	1. 7号井戸全景(西より) 2. 9号井戸全景(北より) 3. 10号井戸全景(北より)	
第22図 出土遺物実測図(1)	47		
第23図 出土遺物実測図(2)	48		
第24図 出土遺物実測図(3)	49		
第25図 出土遺物実測図(4)	50		
第26図 出土遺物実測図(5)	51		

図版6	57	図版10	61
1. 15号井戸全景（北より）		1. 上師質の土器A101出土状況（4 号溝、西より）	
2. 17号井戸全景（北より）		2. 6号溝A層土層（南より）	
3. 4号土壙全景（西より）		3. 6号溝B層土層（南より）	
図版7	58	図版11	62
1. 18号土壙全景（東より）		1. 須恵器環A207・A208出土状況 (6号溝、北より)	
2. 27号土壙全景（東より）		2. 8号溝上層（東より）	
3. 1号焼土遺構全景（北より）		3. 9号溝全景（東より）	
図版8	59	図版12	63
1. 4号溝確認状況（南より）		土師器・土師質の土器	
2. 4号溝上層（A-A'、北より）		図版13 須恵器	64
図版9	60	図版14 中世陶器・青磁	65
1. 4号溝土層（B-B'、北より）		図版15 瓦・近世陶器・金属製品・石製 品	66
2. 土師器甕A004出土状況（4号溝、 西より）		図版16 木製品・植物遺体	67
3. 上師器環A009・A010出土状況 (4号溝、西より)			

## I 調査に至る経過

鴻ノ巣遺跡（仙台市文化財登録番号C-135）は、仙台市岩切字鴻ノ巣にあり、七北田川右岸の自然堤防上に位置する遺跡である。

昭和48年4月から6月には、東北新幹線の路線敷にかかった同遺跡東部を、宮城県教育委員会が記録保存を目的とした発掘調査を行ない、その結果、古墳時代中期・南小泉式期の堅穴住居跡2軒の他、中世に至るまでの多くの遺物を出土した。

仙台近郊の宅地化は同遺跡にも及び、同市岩切字鴻ノ巣80番外もその予定地に上ったため仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係では、この開発地が遺跡の範囲内に位置していることから、開発者と協議し試掘調査を実施して再度協議することになった。

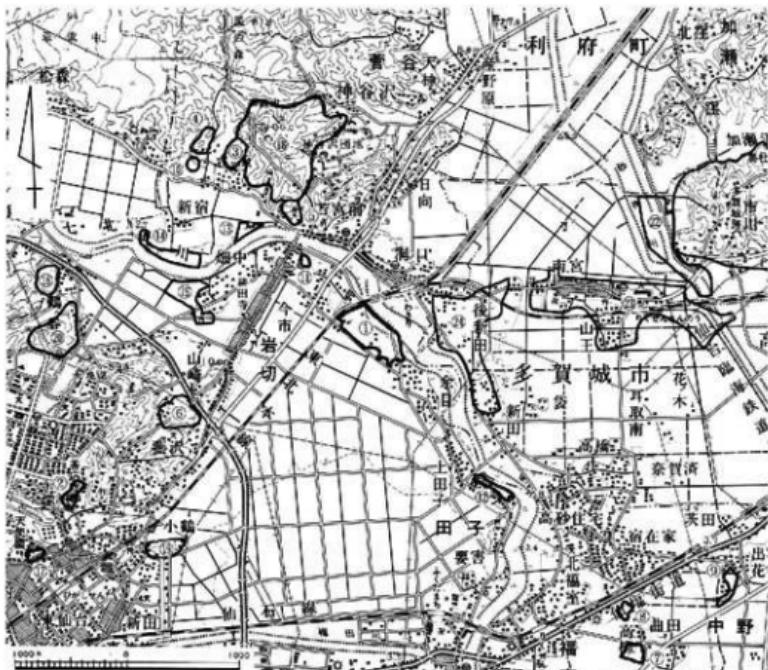
試掘調査を昭和55年3月10日に実施して造構の確認を行なったところ、平安時代に属する遺物を出土する包含層が確認された。このことから開発予定地について再度協議の結果、開発部分の記録保存調査を実施することとし、同年4月8日より本調査を実施した。

## II 調査要項

- 遺跡名称 鴻ノ巣遺跡（C-135）  
○所在地 仙台市岩切字鴻ノ巣80番外  
○調査主体 仙台市教育委員会  
○調査担当 仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係  
  
○担当職員 試掘調査…工藤哲司、佐藤甲一  
本調査…工藤哲司、金森安孝  
○調査期間 試掘調査…昭和55年3月10日  
本調査…昭和55年4月8日～5月29日  
○調査参加者 森剛男、斎藤秀寿、佐藤政人、佐藤正弘、松本舟一、白井一夫、坂忠彦、柿沼敏朗、阿蘇幸二、飯泉寿裕、鈴木健一、相沢林三郎、永野正、相沢勇、加藤久、早坂林治、石垣巧、関場又蔵、藤沢英智、武出ふみ子、佐藤睦子、中原幸子  
  
○調査協力 高橋興業㈱、岩切中区町内会々長相沢林三郎

### III 遺跡の位置と環境

鴻ノ巣遺跡は、仙台駅の北東約7kmの仙台市岩切字鴻ノ巣にある遺跡である。北西の丘陵地帯から平野部に流れ出た七北田川は、土砂の堆積と氾濫を繰り返し、沖積平野を形成した。また両岸に発達した自然堤防を形づくり、遺跡はこの起伏の少ない自然堤防の右岸上にあって標高は約8mである。現在は畠地として利用されているが、周囲には水田も多く、宅地化が進んできている。



1. 鴻ノ巣遺跡(C-135)
2. 善志寺横穴群(C-027)
3. 台星敷横穴群(C-029)
4. 入生沢横穴群(C-030)
5. 東光寺横穴群(C-032)
6. 東光寺古跡・廢坐仏(C-508)
7. 高柳A遺跡(C-173)
8. 高柳B遺跡(C-174)
9. 出花遺跡(C-176)
10. 入生沢遺跡(C-184)
11. 今市遺跡(C-200)
12. 福下遺跡(C-218)
13. 新百四遺跡(C-219)
14. 大正岡遺跡(C-220)
15. 岩切畑中遺跡(C-221)
16. 北畠遺跡(C-237)
17. 大蓮寺窯跡(C-115)
18. 高森城跡(C-502)
19. 小難城跡(C-509)
20. 蛇森城跡(C-512)
21. 多賀城跡
22. 市川橋遺跡
23. 山王遺跡
24. 新田遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡周辺の歴史的環境をみると、古墳時代の遺跡としては、本遺跡の対岸にある新田遺跡（多賀城市）西方丘陵地帯の麓には、善心寺、台原敷、入生沢等の横穴古墳群がみられる。

古代に入ると、陸奥国の國府である多賀城跡が本遺跡の東方約3kmにおかれ、大蓮寺窯跡等の台ノ原・小田原窯跡群をはじめ、各地で奈良、平安時代の土師器、須恵器、瓦が製作され、これらの土器を出土する遺跡が多数存在する。

中世の遺跡では、北西丘陵上に国指定史跡である高森城（岩切城、鴻ノ巣館）がある。これは源頼朝によって、陸奥国守留守職に補任された伊沢（留守）家景が構えた館で、麓には留守氏の菩提寺である東光寺や、中世の磨崖仏、板碑が多数残っている。近辺には小船、笠森城などいくつかの中世の館跡があり、鎌倉時代から戦国時代末期にかけての要害の地であったことがうかがえる。留守家文書によると、当時冠川と呼ばれていた七北田川に「今市橋」が架けられ、冠星市場、河原宿五日市場、在家などの地名がみられ、鎌倉時代には石巻街道にそって七北田川流域には集落が発達しており、すでに商業活動が営まれていたものと思われる。

宮城県教育委員会が行なった発掘調査によれば、本遺跡の東部からは古墳時代中期・南小泉式期の竪穴住居跡2軒が検出されたほか、平安時代に属する土器や中世以降の陶器、磁器も出土している。

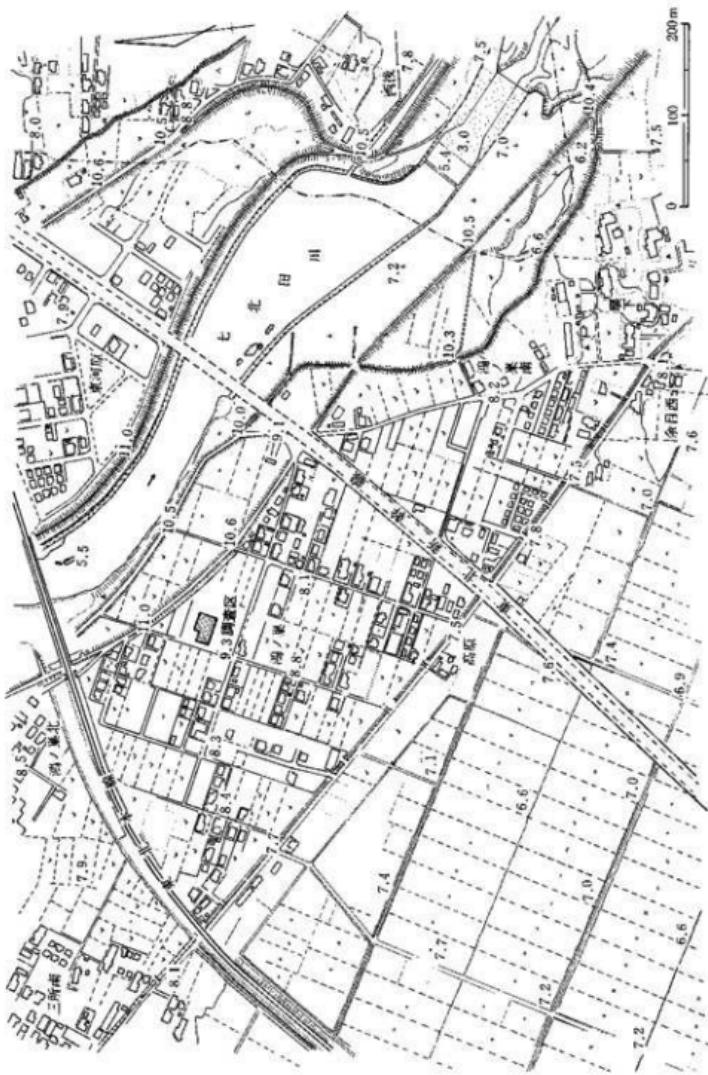
以上のように、本遺跡周辺には、古くは古墳時代から近世に至る遺跡が数多く存在している。

#### IV 調査の方法と概要

発掘調査は4月8日より実施し、開発面積2,034m<sup>2</sup>のうち、排土等を考慮した約540m<sup>2</sup>を調査した。調査区は東西約30m、南北約20mの北西部で凹む鍵形に設定した。表上はユンボを用いて調査区西部で地表下約60cm、東部で約160cm程掘り下げた。

遺跡の基本層位は大きくみて5層に分けられる。第Ⅰ層：山砂の盛土および旧耕作土で厚さは20cm～1m程のにぶい黄褐色ないし黒褐色シルト層である。第Ⅱ層：30～50cmの黒褐色シルト層で少量の遺物、炭化物を含む。第Ⅲ層：20cm程で4層に細分され、トレーナー中央に部分的に堆積している。Ⅲ-1層はにぶい黄褐色砂質粘土層で、炭化物、バミスを含む。Ⅲ-2層は灰黄褐色シルト層で炭化物を含む。Ⅲ-3層は褐色砂質シルト層で、炭化物、バミス、酸化鉄を含む。Ⅲ-4層は灰黄褐色粘土質シルトで酸化鉄、遺物（土師器片）を含む。Ⅲ-1層、Ⅲ-3層が大部分である。第Ⅳ層：5～30cmの灰黄褐色粘土質シルト層で遺構確認面である。粒子が粗く、酸化鉄を含む。第Ⅴ層：10～20cmの黄褐色シルト質粘土層である。第Ⅵ層：黒褐色シルト質粘土層である。トレーナー東部では旧河川のために第Ⅱ～Ⅴ層がなく、第Ⅴ層ないしは

第2図 調査区検定図



VI層が遺構確認面となっている。

遺構は調査区のほぼ全域から検出されるが、特に、調査区中央部を南北に走る溝（6号溝）の西側微高地で密度が高く、次いで、調査区北側を東西に延び、東寄りで南に曲がる「」字形の溝（1号溝）にはさまれる部分で多く、1号溝の北側と東側では殆んど検出されない。

検出された遺構には、井戸跡11基、土壙19基、焼土遺構1基、溝跡10条、孤立柱建物跡13棟以上、さらには柱穴を含むピット約240個がある。時期的には、平安時代から中世にかけての遺構である。

実測方法は、調査区全域に3m方眼の通り方を設定し、新しい時期より順次実測し、調査は延べ32日を費やし、5月29日に終了した。

## V 発見遺構

### 1. 井戸跡

調査区全域から総数11基の井戸跡が検出された。形態的にみて大別すると次の4つの型式に分類される。

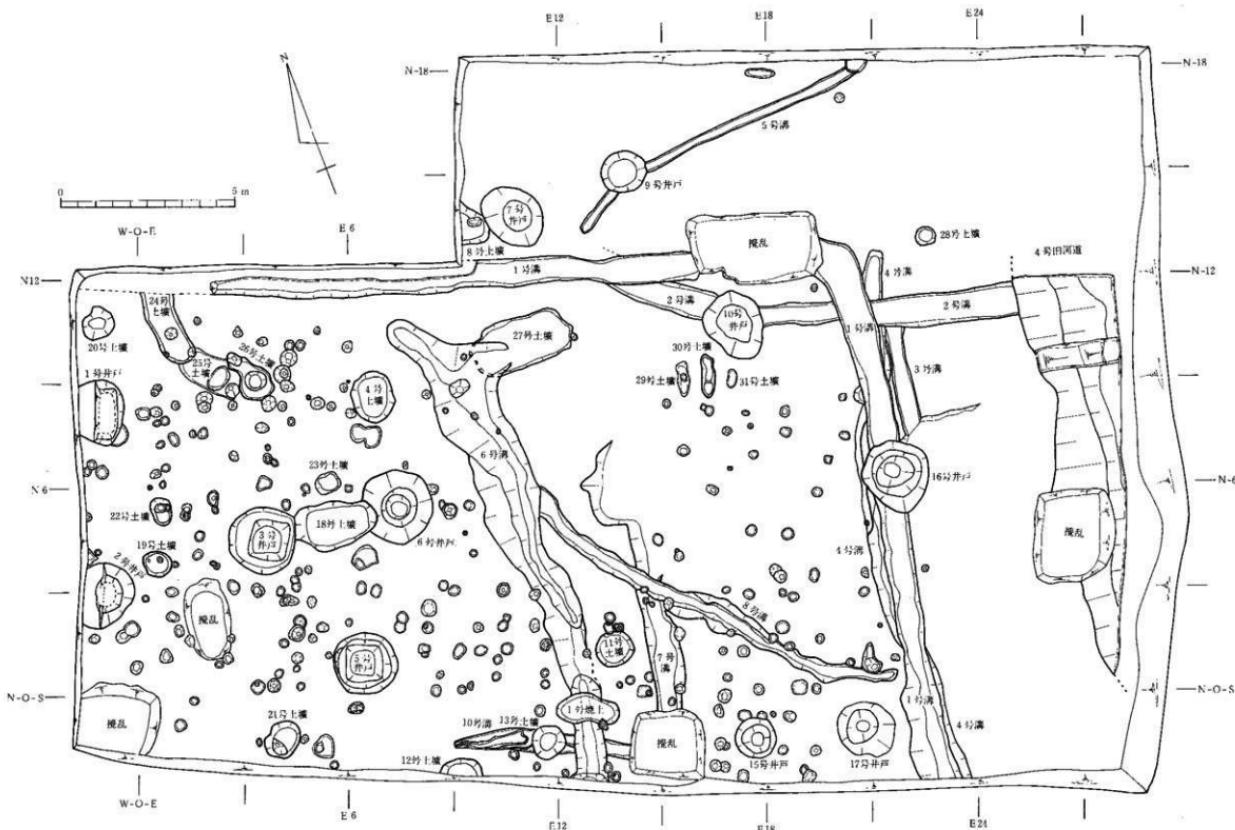
Aタイプ…円形の掘り方に中にさらに円形の素掘りがあり井側を組んでいるもの。

Bタイプ…円形の掘り方に中に方形の素掘りがあるもの。

Cタイプ…円形、稍円形の掘り方で円筒形の素掘りのもの。

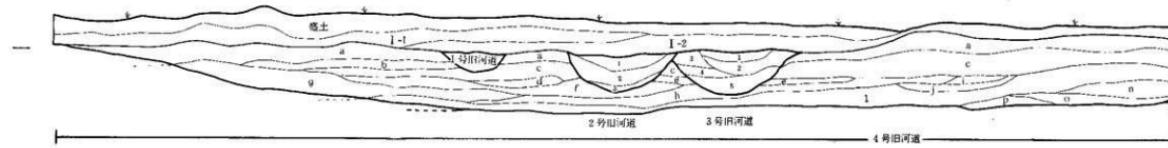
Dタイプ…円形の掘り方で底に近づくに従って段々にすぼまっていく素掘りのもの。

Aタイプ 16号井戸1基である。16号井戸は確認面で206×190cmの歪んだ円形の掘り方に1辺90cm程の方形の井側を有するもので、深さは194cm、井側は上部が消失している。残存する井戸枠材とその遺存状況から推定すると、四隅に四ツ割の基礎柱を杭のように打ち込み（第5図：⑩・⑪）、その上部に隅柱（横木を差し通す孔穴を穿つてあるもの：⑫・⑬、孔穴のないもの：⑭・⑮・⑯）を立て、隅柱間に横木（⑨・⑭）を差し通すか、横板（⑪・⑯・⑰）をわたし、その外側に5～6枚の側板（⑯・⑰・⑪・⑭・⑯）を立てかける井戸枠構造であったと考えられる。井戸内の堆積土6層上面から出土する枠材は殆んどが南側壁のものと推定される。残存する枠材の大きさは、四ツ割で先端を尖らせた基礎柱（⑩）が残存部全長113cm、幅4～8cm、厚さ2～5.5cmを計り、四角に面取りし横木用の孔穴を2つ穿つてある隅柱（⑯）では残存部全長65cm、一辺8cm×7cm、丸材で孔穴を1つ穿つてある隅柱（⑯）では残存部全長37.5cm、直徑9.5cmである。横木には先端を四角に尖らせてあるものと、二ツ割のものとがあり、前者には角材であるもの（⑨：全長77cm、一辺4.5×7cmと⑭：全長67cm、一辺3×3.5cm）と

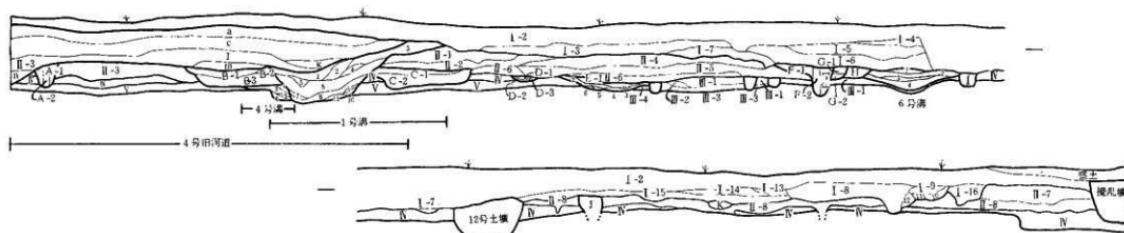


第3図 潟構配図

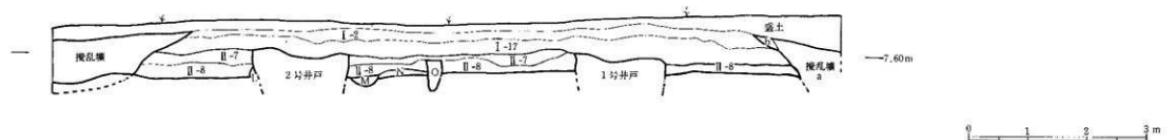
トレンチ東壁



トレンチ南壁



トレンチ西壁



第4図 調査区土層図

第1表-1 調査区土層記表

調査	層位	上名	下名	その他の地質構造	上色	下色	その他の
基	I-1	JYR K2にかく黄褐色	シルト	砂岩土	a JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	マンガンをわずかに含む
	2	JYR K2層 黄褐色	シルト	粘土土	b JYR K2層にかく黄褐色	シルト	マンガンを微量に含む
	3	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	c JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	マンガンを多く含む
	4	JYR K2層 和名	シルト		d JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	マンガンを多く含む
	5	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	e JYR K2層にかく黄褐色	沙質土	
	6	JYR K2層 黄褐色	シルト		f JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	黒褐色のマンガンを含む
	7	JYR K2層 黄褐色	シルト		g JYR K2層にかく黄褐色	沙質土	
	8	2.5YR黄褐色	シルト	炭化物を少量含む	h JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	
	9	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物・礫化物を多く含む	i JYR K2層にかく黄褐色	赤	
	10	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を多く含む	j 水 基		
本	II	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を少額含む	k JYR K2層 黄褐色 地	粘土質シルト	
	11	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	l JYR K2層 黄褐色 地	粘土質シルト	
	12	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	m JYR K2層 黄褐色 地	粘土質シルト	
	13	JYR K2層 黄褐色	シルト	マンガンを含む	n JYR K2層 黄褐色 地	粘土質シルト	
	14	JYR K2層にかく黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	o JYR K2層にかく黄褐色	粘土質シルト	
	15	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	p JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	
	16	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を含む	q JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	
	17	JYR K2層にかく黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	r JYR K2層 壤 色 シルト	シルト	
	E-1	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を含む	s JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	
	2	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む	t JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	
基	3	JYR K2層 内	シルト	炭化物をわずかに含む	u JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む
	4	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を多く含む	v JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む
	5	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物・小礫を含む	w JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む
	6	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物・小礫を含む	x JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む
	7	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を多く含む	y JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む
	8	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を多く含む	z JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む
	H-1	JYR K2層にかく黄褐色	砂質土	炭化物・バジス多量含む	aa JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を少額含む
	2	JYR K2層 黄褐色	シルト	炭化物を含む	bb JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	
	3	JYR K2層 砂	砂質シルト	炭化物・バジス・鉄化物を含む	cc JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	
	4	JYR K2層 黄褐色	シルト	鉄化物を含み、土壁剥離傾向を含む	dd JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を少額含む
B	JYR K2層 黄褐色	粘土質シルト	鉄化物・鉄鉱石を含む	ee JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物・鉄化物を少額含む	
V	2.5YR黄褐色	シルト	粘土質土	ff JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む	
N	JYR K2層 黄褐色	シルト	粘土質土	gg JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む	
1号冲積	JYR K2層にかく黄褐色	砂質土		hh JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む	
1	JYR K2層 黄褐色	シルト	マンガンをわずかに含む	ii JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む	
2号冲積	2	JYR K2層 黄褐色	シルト	1層は灰褐色を帯びる	jj JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む
3.	JYR K2層 黄褐色	シルト	粘土質土	kk JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む	
2号冲積	1	JYR K2層 黄褐色	シルト	粘土質の砂を含む	ll JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む(ビット内壁剥離)
	2	JYR K2層 黄褐色	シルト	粘土質の砂を含む	mm JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む(ビット内壁剥離)
	3	JYR K2層 黄褐色	シルト	砂を含む	nn JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を含む
	4	JYR K2層 黄褐色	シルト	マンガンを含む	oo JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む
	5	JYR K2層 黄褐色	シルト	砂を含む	pp JYR K2層 壽 色 シルト	シルト	炭化物を多く含む

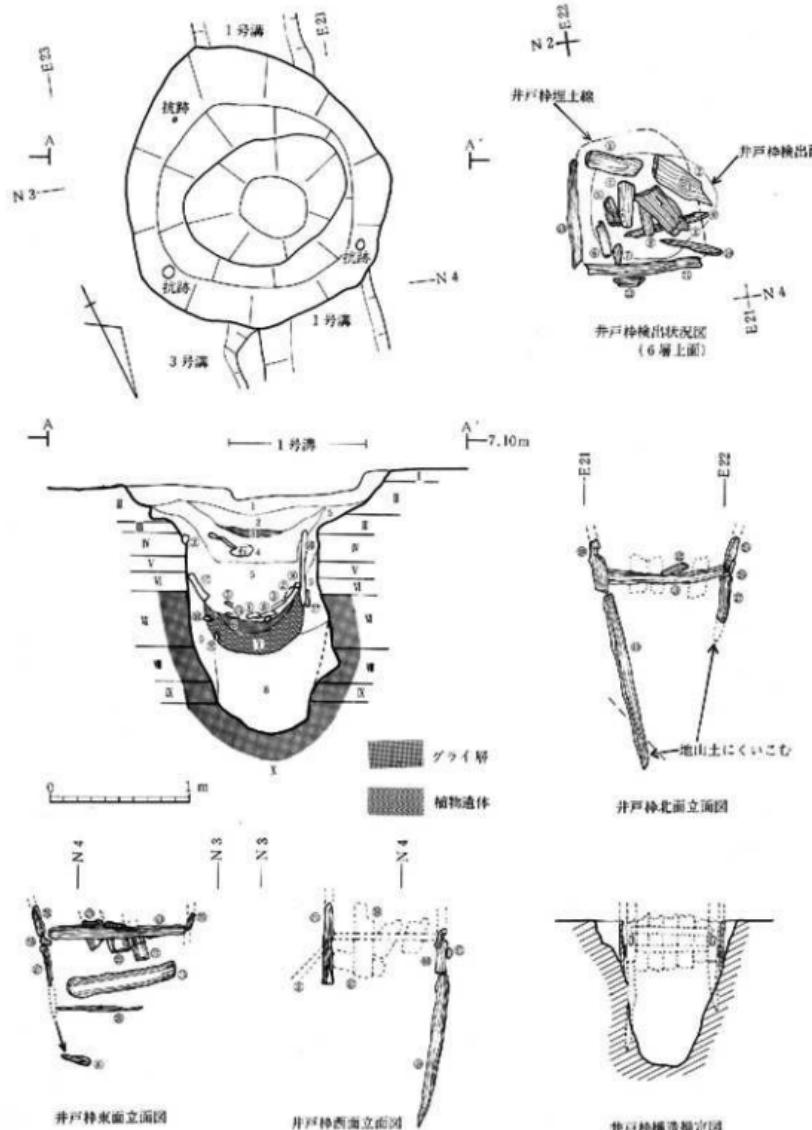
第1表-2 調査区土層性記表

通 常	品種	色	土	性	そ の 他	の い
E	1 JOYR系 黒 色	色	砂質シルト	酸性物を多く含む		
	2 JOYR系 緑 色	色	砂質シルト	酸化鉄・パミスを多く含む		
	3 JOYR系 紫 色	色	砂質シルト	多くの腐殖物とバクスを含む		
	4 JOYR系 灰 色	色	砂質シルト	酸化鉄・バクスを含む		
	5 JOYR系 鮎 色	色	砂質シルト	おほかの酸化鉄・酸化バクスを含む		
F	6 JOYR系 紫 色	色	シ ルト		おほかの酸化鉄・酸化バクスを含む	
	7 JOYR系 黒 色	色	シ ルト		葉酸鉄を多く含む・土壤生物をつかう	
G	1 JOYR系 緑 色	色	シ ルト		酸化物を多く含む	
	2 JOYR系 紫 色	色	シ ルト		酸化物を少し含む	
H	2.5 V系 湿 土	色	シ ルト		酸化物を少し含む	
	3 JOYR系 1.5V-紫褐色	色	シ ルト		小石・まだら物を含む	
6 片藻	1 JOYR系 黑 色	色	シ ルト		酸化鉄を少し含む・ビック(内部結晶)	
	2 JOYR系 黑 色	色	シ ルト		酸化鉄と重曹シルトと酸性物をコロナに含む	
	3 JOYR系 黑 色	色	シ ルト		酸化鉄と重曹シルトと酸性物を少しある	
	4 JOYR系 黑 色	色	粘土質シルト		酸化鉄シルトをブロック状に含む	
12青土系	JOYR系 黑 色	色	シ ルト		浜松青色地表シルトと粗粘物をプロトックに含む	
	2 JOYR系 1.5V-青褐色	色	シ ルト		浜松青色地表シルトと粗粘物をプロトックに含む	
K	1 JOYR系 灰 灰 色	色	シ ルト		酸性物を多く含む	
	2 JOYR系 灰 灰 色	色	シ ルト		酸性物を多く含む	
多野原	1 JOYR系 1.5V-黄褐色	色	シ ルト		酸化物を多く含む	
	2 JOYR系 1.5V-黄褐色	色	シ ルト		酸化物を多く含む	
L	1 JOYR系 1.5V-灰褐色	色	シ ルト		酸化物を多く含む	
	2 JOYR系 1.5V-灰褐色	色	シ ルト		酸化物を多く含む	
M	1 JOYR系 黑 灰 色	色	シ ルト		酸化物を多く含む(ビック内部結晶)	
	2 JOYR系 黑 灰 色	色	シ ルト		酸化物を多く含む	
O	1 JOYR系 黑 灰 色	色	シ ルト		酸性物を多く含む(ビック内部結晶)	
	2 JOYR系 1.5V-黄褐色	色	シ ルト		酸化物・珪藻を含む	
透 透 土	a 1 JOYR系 1.5V-黄褐色	色	シ ルト		酸化物・珪藻を含む	
	b 1 JOYR系 1.5V-黄褐色	色	シ ルト		酸化物・珪藻を含む	
1 寺澤	1 JOYR系 黑 灰 色	色	シ ルト		酸化物を多く含む・ブロック状に含む・小石・珪藻を含む	

第2表 16号井戸土層記述表

層	土	角	土性	その他の
1	10YR5/6 黒	南	色 粘土質シルト	粘土を含む
2	20YR5/6 黑	南	色 粘土質シルト	バシスをわずかに含む
3	10YR1/2 黒	北	粘土質シルト	炭化土層
4	10YR5/6 黑	南	色 シルト	
5	2.5 Y5 黑	南	色 シルト	植物種子(ウサギ)を含む
6	2.5 Y5 黑	北	シルト質粘土	炭化土層
7	10YR5/6 黑	南	色 植物遺体	スゲ? (黒面)
8	10YR5/6 黑	北	色 粘土質シルト	
9	10YR5/6 黑	北	シルト質粘土	腐泥を含む
I	10YR5/6 黑	北	色 粘土質シルト	基本等高線にわたる
II	10YR5/6 黑	北	色 粘土質シルト	
III	10YR5/6 に少し黄	北	色 粘土質シルト	
IV	10YR5/6 黑	北	シルト質粘土	
V	10YR5/6 灰	南	色 シルト質粘土	
VI	2.5 Y5/6 灰	南	色 シルト質粘土	
VII	2.5 Y5/6 灰	南	色 シルト質粘土	
VIII	2.5 Y5/6 帯オーバー灰	北	帶	
IX	2.5 Y5/6 帯オーバー灰	南	帶	
X	2.5 Y5/6 帶	北	粘土質砂	泥水・枯葉を多量に含む

丸材で全長76cm、直徑4.5～6 cmのものとがあり、後者では全長69cm、幅9～11cm、厚さ5～10cmのものと全長95cm、幅7～15cm、厚さ6～9 cmの2本の遺存が良好である。横板では⑪：全長90cm、幅8～12cm、厚さ2～4 cmと⑬：全長96cm、幅6～10cm、厚さ2.5～4 cmが、側板では②：残存部全長49cm、幅14～18cm、厚さ2～3 cm、③：残存部全長44cm、幅21～23cm、厚さ2～5 cm、④：残存部全長34cm、幅11～15cm、厚さ4～5 cm、⑯：残存部全長53cm、幅13～16cm、厚さ2～3.5cm、⑮：残存部全長46cm、幅15～18cm、厚さ2.5～4 cmの5枚の遺存状況が良好である。これらの枠材の他に、①：残存部全長78cm、幅13～16cm、厚さ2.5～3.5cmと⑯：残存部全長91cm、幅14～15.5cm、厚さ3～3.5cmの2枚の用途不明な平板が出土している。井



第5図 16号井戸実測図

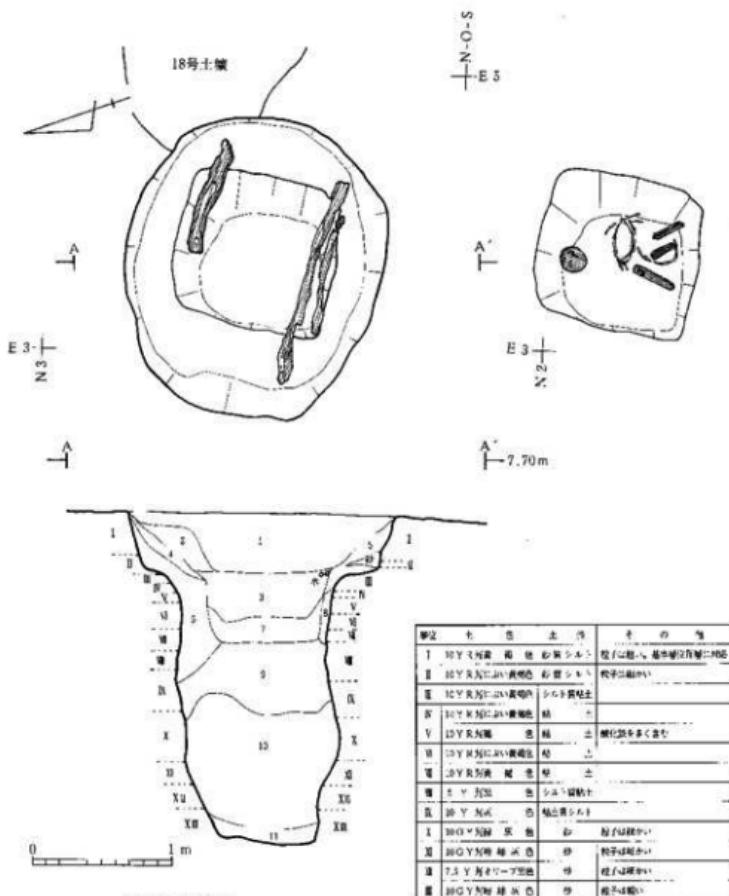
戸の掘り方は確認面で円形で、40cm程一段掘り込んだ後、さらに円形の垂直な掘り方となり、枠材より下部では不整形の素掘りとなり、最深部は断面形がV字状を呈す。堆積土1層下層より中世陶器の破片が3点出土した。4号溝を切り、1号溝に切られている。

**Bタイプ** 1号・3号・5号井戸の3基である。1号井戸は確認面で直径180cm程の平面形がほぼ円形と考えられる掘り方で、40~50cm程の深さで緩やかな円形から垂直な方形の掘り方にかわる。深さは180cm以上で、堆積土中に土師器片、須恵器片、木片を含む。調査区の西端に位置し、トレンチ壁の崩落の危険があったために井戸基底面を検出するに至らなかった。3号井戸は確認面での平面形が186×170cmの不整円形の掘り方で、深さ40cm程のところで段がつき、これより平面形が方形で壁面がほぼ垂直の掘り方にかわる。深さ236cm、底面は1辺65cmの方形である。堆積土の上部からは、段のところにかかるような状態で2本の丸材と木片が出土した。底部付近からは木桶の一部（側板8枚、底板1枚、竹製の箆2本）。側板のうち1枚には取手をはじめ込む柄孔があいている）が散乱した状態で出土した他、中世陶器片が出土しており、18号土壌を切っている。5号井戸は確認面で直径約180cmの円形に近い掘り方の井戸で、深さ20cm程で掘り方の傾斜が一回急から緩にかわり、深さ50cm付近で方形の垂直な掘り方となる。深さ198cm、底面は一辺約65cmの方形である。

**Cタイプ** 2号・6号・7号・10号・17号の5基の井戸である。平面形が円形または梢円形の掘り方で、直径は1.5mから2m程ある。深さ30~60cmで緩やかな段を有し、さらに直径0.6~1.1mの円筒形の素掘りとなるもので、深さが最も浅い17号井戸で112cm、深い2号井戸で194cmとさまざまである。底面直径も30cmから110cmと幅があるが、崩落のため壁面上がえぐられたことを考えれば、30~60cm程であろう。7号井戸と10号井戸は特に湧水が激しかった。出土遺物は2号から土師器片、木片、6号から鉄製の小刀（B001：第25図、図版15）、聖宋元宝（B101：第21図、図版15）と銭名不明の古銭片（B102：第21図、図版15）、7号から中世陶器3点（A301：第24図、図版14、A305：第24図、図版14、A306：第24図、図版14）、10号から中世陶器鉢（A307：第24図、図版14）と須恵器片、17号から割花花卉文青磁碗（A401：第25図、図版14）の破片が出土している。

**Dタイプ** 9号井戸と15号井戸の2基である。9号井戸は確認面で直径130cm程のほぼ円形の掘り方のもので、急な傾きですぼまるが、崩落のために壁面が底部付近で少しせぐられた形になっており、深さ130cm、底面直径75cmを計る。湧水が激しく、土師器・須恵器・中世陶器の破片を出土し、5号溝を切っている。15号井戸は確認面で直径120cm程のほぼ円形の掘り方で底に近づくにしたがって徐々にすぼまっていくもので、深さ182cm、底部直径30cmを計り、土師器・中世陶器の破片を出土している。

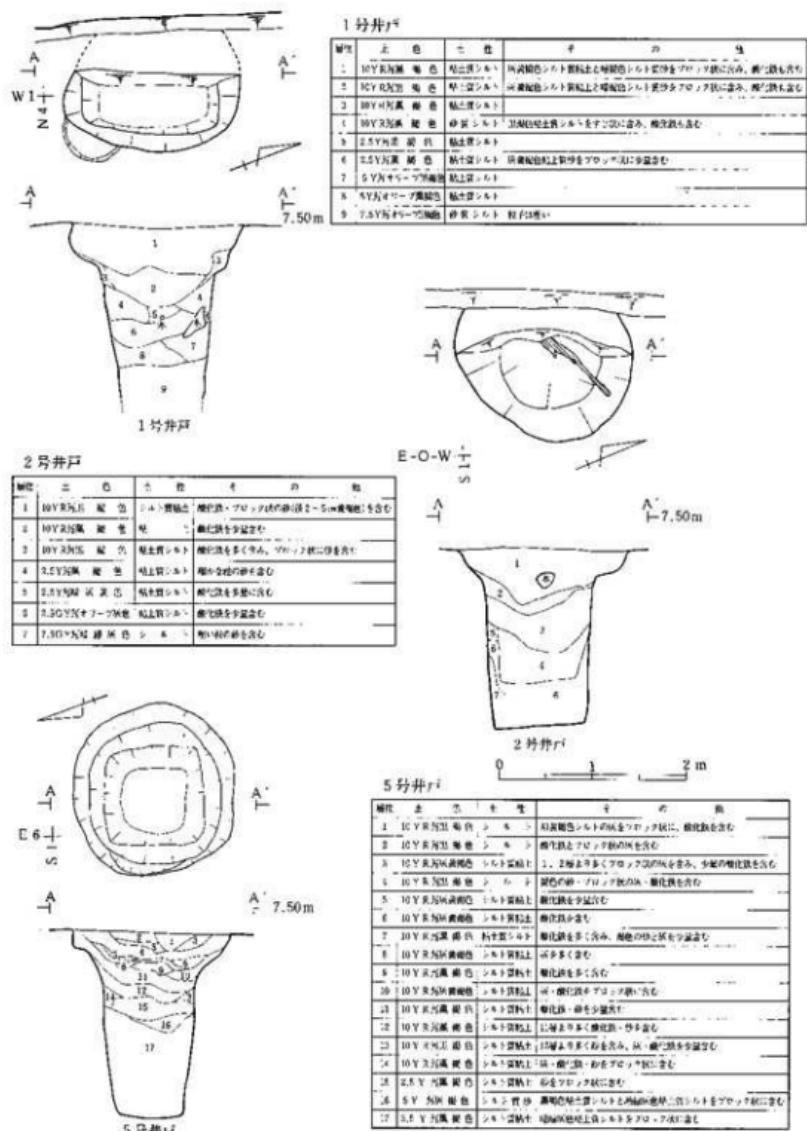
3号井戸と6号井戸は18号土壌と重複関係があり、新旧関係は6号井戸が古く、3号井戸が



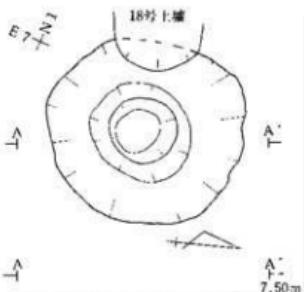
3号井戸堆積土

層位	土 壁	土 質	そ の 特
1	10 Y R 4/2	褐 土	シルト質シルト ブロック状の跡・粘土と、少量の酸化鉄を含む
2	3.5 Y R 4/2	褐 土	上 酸化鉄を多量に含む
3	10 Y R 4/2	褐 土	上 酸化鉄をブロック状に多く含む
4	10 Y R 4/2	褐 土	上 酸化鉄・シルト質シルト状の跡を含む
5	10 Y R 4/2	褐 土	中量の酸化鉄とブロック状の跡を含む
6	10 Y R 4/2	褐 土	シルト質シルト 上部にブロック状の酸化鉄と、下部にブロック状の跡を含む
7	5 Y R 4/2	シルト質シルト 柱状構造なし	柱状構造なし
8	10 Y R 4/2	褐 土	
9	2.5 Y R 4/2	褐 土	シルト質シルト 柱状構造なし
10	2.5 Y R 4/2	褐 土	柱状構造なし
11	3 C	多	

第6図 3号井戸実測図



第7図 井戸跡実測図(1)



6号井戸

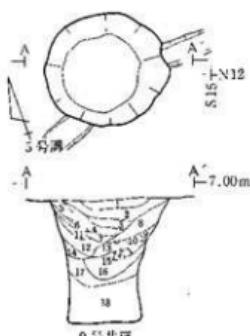
層位	上	中	下	その他の
1	10YR4/2M	緑色	シルト質粘土	粘土・炭化物・粘土洗浄
2	10YR4/2M	緑色	砂質粘土	白色パラスを多く含み褐色サブリック混入
3	10YR4/2M	緑色	砂質粘土	白泥パラスを少部分含む褐色のブロック多く混入
4	10YR4/2M	緑色	砂質粘土	白色を含み薄青色、セリーヴ面積の小ブロック
5	10YR4/2M	緑色	粘土	セリーヴ面積多く含む
6	10YR4/2M	緑色	シルト	炭化物を多量に含む
7	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
8	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
9	5G7Y7M	緑色	粘土	粘土層
10	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
11	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
12	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
13	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
14	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
15	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
16	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
17	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層
18	10YR4/2M	緑色	粘土	粘土層

7号井戸

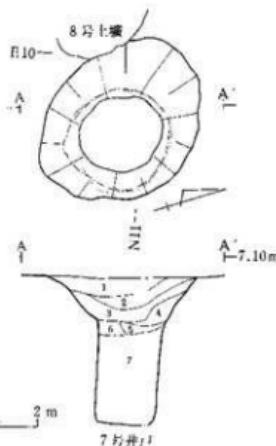
層位	二	三	上	中	下	その他の
1	10YR4/2M	緑色	シルト質粘土	無鉱物・幾多多量に、少部分ブロック状に小塊含む		
2	10YR4/2M	緑色	シルト質粘土	無鉱物・少量少部分含む		
3	7.5Y	万葉	緑色	シルト質粘土		
4	7.5Y	万葉	緑色	シルト質粘土	砂を伴う	
5	5Y	カリーフ	緑色	シルト質粘土		
6	10YR4/2M	緑色	シルト質粘土	無鉱物・無鉱物含む		
7	7.50	7Y5M	緑色	砂質シルト		

0 1 2 m

7号井戸



8号井戸



9号井戸

層位	上	中	下	その他の
1	10YR4/2M	緑色	シルト	
2	10YR4/2M	緑色	シルト	
3	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
4	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
5	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
6	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
7	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
8	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
9	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
10	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
11	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
12	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
13	7.5Y	万葉	緑色	砂質シルト
14	10YR4/2M	緑色	砂質シルト	無鉱物を含む
15	5Y	万葉	緑色	砂質シルト
16	10C7Y5M	緑色	シルト質粘土	グリーン化
17	10YR7/2M	緑色	シルト質粘土	グリーン化
18	10YR4/2M	緑色	シルト質粘土	グリーン化

第8図 井戸跡実測図(2)

新しい。したがって、円形の掘り方の中に方形の掘り方をもつBタイプよりも円形の素掘りのCタイプの方が古式であると考えられる。中世陶器や青磁の出土があることや、近世以降の遺物を共伴しないことから、11基の井戸跡は中世のものと考えられる。

第3表 井戸跡一覧表

No	平面形・タイプ	大きさ(cm)	深さ(cm)	その他の
1	円形 B	184×128以上	180以上	土師器・須恵器・木片
2	円形 C	188×144以上	194	土師器・木片
3	円形 B	214×182	236	木桶・丸材・木片・中世陶器。18号土壌を切っている。
5	円形 B	186×170	198	
6	円形 C	212×202	162	須恵器・鉄製小刀・聖宋元宝。18号土壌に切られている。
7	楕円形 C	194×154	158	土師器・須恵器・中世陶器(甕・鉢)。8号土壌に切られている。
9	円形 D	134×122	130	土師器・須恵器・中世陶器。5号溝を切っている。
10	楕円形 C	202×172	148	須恵器・中世陶器(鉢)。2号溝を切っている。
13	円形 D	120×112	182	土師器・中世陶器
16	円形 A	206×190	194	井戸跡・中世陶器。4号溝を切り、1号溝に切られている。
17	円形 C	176×154	112	青磁碗

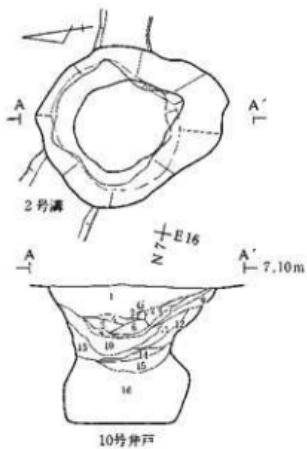
## 2. 土 壤

調査区全域より総数19基の土壤が検出された。うち12基は調査区の西側微高地に位置する。

**4号土壤** 調査区中央部のやや北寄りに検出され、確認面での平面形は楕円形で、大きさは上面で南北146cm、東西114cmを計る。深さは確認面より22~30cmである。断面形は緩やかな立ち上がりの舟底形を呈するが、南壁のみ急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。堆積土はベルト位置で5層に分けられ、黒褐色の砂質シルトと粘土質シルトが大部分を占める。土壤のほぼ半分が9号溝を切っている。出土遺物には土師器の壺・甕の破片、須恵器の体部片、中世陶器片がある。

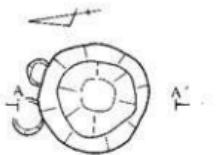
**8号土壤** 調査区北寄りに検出され、西側半分は調査区外に延びている。確認面での平面形は歪んだ楕円形と考えられ、大きさは上面で南北122cm、東西82cmを計る。底面北寄りに深さ2~4cmほどの凹みをもつ。深さは確認面より20~25cm程度であるが、調査区トレンチ壁の観察によれば、最深96cmを計り、断面形は鉢形で堆積土は5層に分かれる。土壌の東側を7号井戸に、南側を1号溝に切られる。

**11号土壤** 調査区中央部南寄りに検出され、確認面での平面形は直径110cmの円形である。



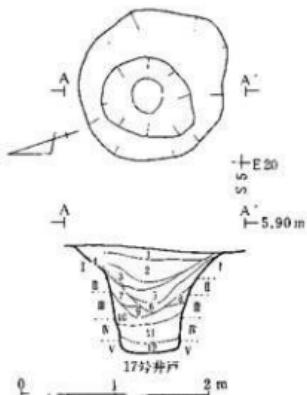
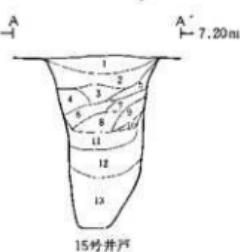
10号井戸

層位	土色	土性	その他の
1	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥・土塊をわずかに含む
2	20YR4/2赤 褐色	シルト質粘土	炭化物を多く含む
3	20Y系到所 褐色	シルト質粘土	泥・塊をわずかに含む
4	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥・塊をわずかに含む
5	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥・塊を少許含む
6	7.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	全体に砂を混入し、块・少量の礫土を含む
7	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥・塊を少許含む
8	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥・塊を少許含む
9	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をわずかに含む
10	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をわずかに含む
11	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をわずかに含む
12	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をわずかに含む
13	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に少許含む
14	10YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に少許含む
15	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に少許含む
16	3.0YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	



15号井戸

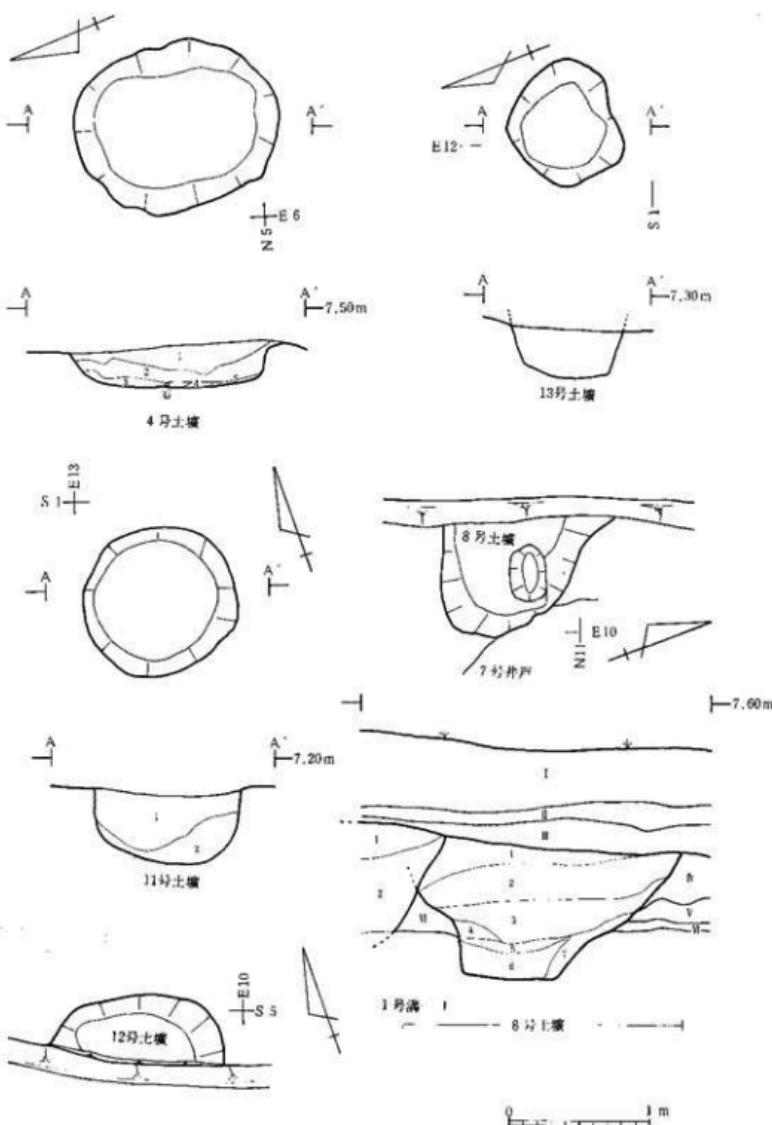
層位	土色	土性	その他の
1	10YR5/5薄 褐色	シルト	炭を含む
2	10YR5/5薄 褐色	シルト	泥・炭化鉄を含む
3	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥・炭化鉄を含む
4	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥・炭化鉄を少許含む
5	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭化鉄を少許含む
6	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭化鉄をわずかに含む
7	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭化鉄・泥をブロック状に含む
8	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭化鉄をわずかに含む
9	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭化鉄をわずかに含む
10	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭化鉄を少く含む
11	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	炭化鉄をブロック状に含む
12	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に含む
13	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に含む
14	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に含む
15	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に含む



17号井戸

層位	土色	土性	その他の
1	10YR4/10灰 褐色	シルト	泥と粗い粒子を含む(底本層は厚い)
2	10YR4/10灰 褐色	シルト	泥・炭化鉄を含む
3	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	炭質粘土質シルトをブロック状に含む
4	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥を多く含む
5	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥化鉄・泥を多量に含む
6	2.5YR4/7-4薄 褐色	粘土質シルト	泥化鉄・泥をブロック状に含む
7	2.5YR4/7-4薄 褐色	粘土質シルト	泥化鉄を少許含む
8	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥をブロック状に含む
9	10YR4/10灰 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に含む
10	10YR4/10灰 褐色	シルト質粘土	泥をブロック状に含む
11	10YR4/10灰 褐色	粘土質シルト	泥をブロック状に含む
12	10YR4/10灰 褐色	粘土質シルト	泥化鉄を含む
13	10YR5/5薄 褐色	シルト	泥化鉄を多く含む
14	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥質粘土・泥化鉄を含む
15	10YR5/5薄 褐色	粘土質シルト	泥化鉄を含む
16	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	
17	2.5YR5/5薄 褐色	シルト質粘土	

第9図 井戸跡実測図(3)



第10図 土壤実測図(1)

第4表 土壌土層記記表(1)

地 構	層位	土 色	土 性	そ の 他
4号土壌	1	10YR N 黒褐色	砂質シルト	小礫をわずかに含む
	2	10YR N 黒褐色	粘土質シルト	灰をブロック状に少量含む
	3	10YR N 黑褐色	シルト	灰を含む
	4	10YR N に近い黄褐色	砂質シルト	
	5	10YR N 灰黄色	砂質シルト	
13号土壌	7.5YR N 黒色	砂質シルト	酸化鉄を多く含み、焼土粒、木炭も含む	
8号土壌	1	7.5YR N 喀褐色	シルト	砂粒を少量含む
	2	10YR N 黒褐色	粘土質シルト	
	3	10YR N 黑褐色	粘土質シルト	
	4	7.5YR N 黑褐色	シルト質粘土	
	5	10YR N 黑褐色	シルト質粘土	シルト化した炭化物を含む
	6	10YR N に近い黄褐色	シルト質粘土	5層との間に少量バミスを有する
	7	7.5YR N 黑褐色	砂質粘土	
11号土壌	1	10YR N 黑褐色	シルト	灰黄褐色シルト質粘土と酸化鉄をブロック状に含む
	2	10YR N 黑褐色	シルト	灰黄褐色シルト質粘土をブロック状に多く含む
12号土壌	註記は第1表～2調査区土層記記表を参照			

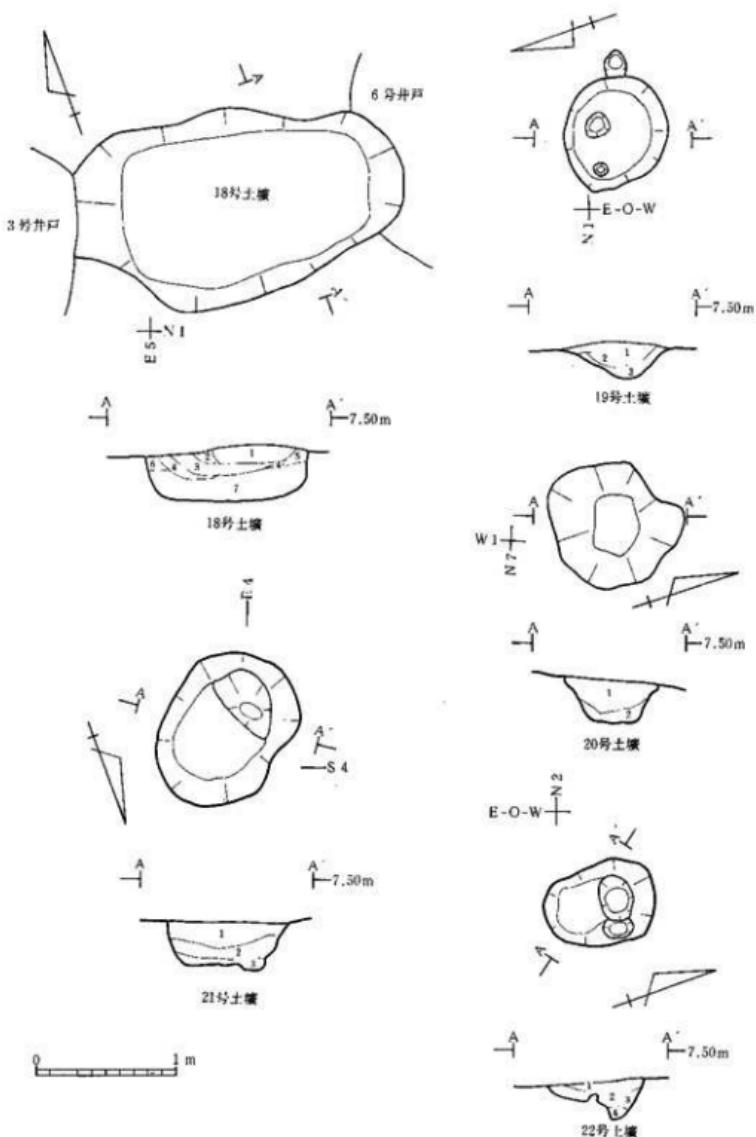
深さは確認面より38~48cmで、床面は西側が高く、東側に傾斜している。断面形は舟底形を呈し、壁面は急に立ち上がる。堆積土は黒褐色シルトでその中にブロック状の灰黄褐色粘土を含み、人為的に一時に埋められたものと考えられる。

12号土壌 調査区の南側に検出され、南側半分は調査区外に延びている。確認面での平面形は隅丸方形と考えられ、大きさは確認面で東西126cm、南北50cm程度ある。深さは確認面より24~32cmを計るが、トレチニ壁の観察によれば46~66cmとなり、上端が東側で低く西側で高い舟底形の断面形を呈する。堆積土は黒色シルトでブロック状の灰黄褐色粘土質シルトを含み、人為的に一時に埋められたものと考えられる。

18号土壌 調査区中央部に検出され、6号井戸を切り、3号井戸に切られている。確認面での平面形は歪んだ橢円形で大きさは上面で長軸234cm、短軸136cmを計る。深さは確認面より30~40cmで、断面形は急な立ち上がりの舟底形を呈し、堆積土はベルト位置で7層に分けられるが、基本的には黒褐色シルト層（1層~6層）と黒色粘土質シルト層（7層）に大別され、どちらも炭化物を多く含む。遺物は、3層中より青磁碗の破片が2点（A404：第25図、図版14、A405：第25図、図版14）出土した。

19号土壌 調査区西側中央に検出された。確認面で平面形は不整方形で、大きさは上面で東西86cm、南北72cm、深さは確認面より10~26cmで、底面に2個のビット（深さ5~9cm）を検出した。断面形は鉛錐形を呈し、堆積土は3層に分かれる。遺物は1層上面で須恵器環（A212：第23図）を出土した。

27号土壌 調査区中央部北寄りに検出された。確認面で平面形は隅丸長方形で、大きさは上



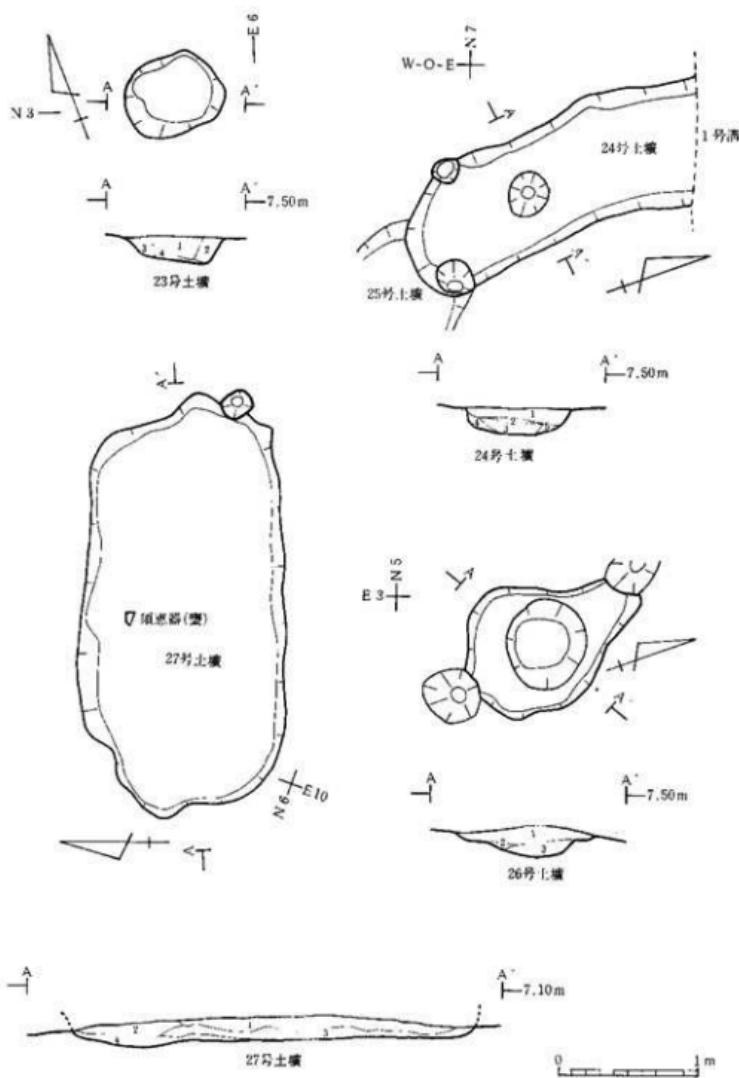
第11図 土壌実測図(2)

第5表 土壌土層誌記表(2)

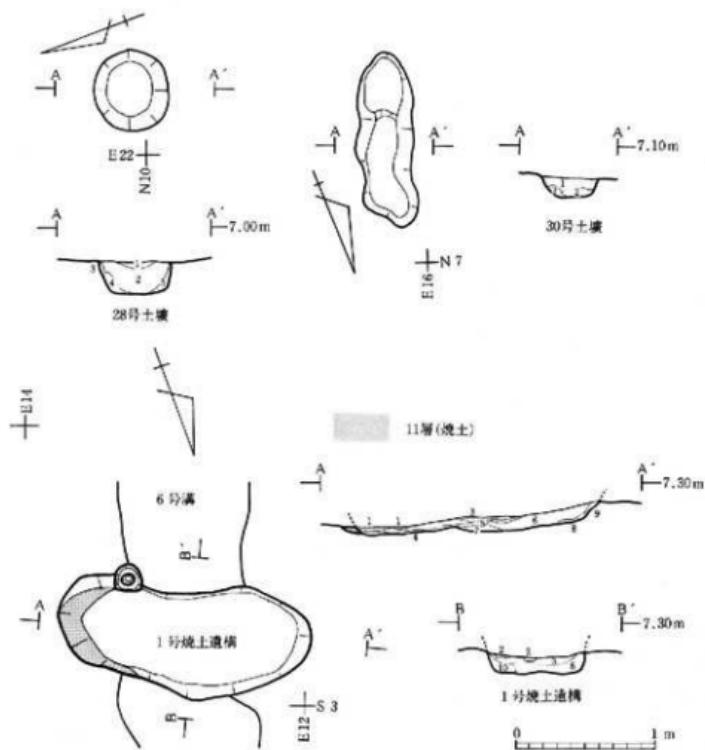
遺構	部位	土色		土性		その他	
		1	2	3	4	5	6
18号土壌	1	10YR 4/2 黒褐色	褐色	シルト	ト	炭を含む	
	2	10YR 4/2 黑褐色	褐色	砂質シルト			
	3	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト	ト	炭を含む	
	4	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト	灰砂	黒褐色シルトをブロック状に含む	
	5	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト	ト	炭を含む	
	6	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト	ト	炭を含む	
	7	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		炭を多く含む	
19号土壌	1	10YR 4/2 喀褐色	褐色	粘土質シルト		砂をブロック状に少量含む	
	2	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		炭を含む	
	3	10YR 4/2 喀褐色	褐色	砂質シルト			
20号土壌	1	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		全体に砂粒(径2~4mm)と少量の炭を含む	
	2	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		7.5Y R 4/6 喀褐色の砂質シルトをブロック状に含む	
21号土壌	1	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		炭を少しある	
	2	10YR 4/2 喀褐色	褐色	粘土質シルト		炭をわずかに含む	
	3	10YR 4/2 喀褐色	褐色	砂質シルト			
22号土壌	1	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト			
	2	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト			
	3	10YR 4/2 黑褐色	褐色	砂質シルト			
23号土壌	4	10YR 4/2 灰褐色	褐色	シルト			
	1	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト		炭・鉄化鉄をわずかに含む	
	2	10YR 4/2 黑褐色	褐色	砂質シルト		ブロック状の黑色シルトと礫を含む	
	3	10YR 4/2 喀褐色	褐色	砂質シルト		礫を含む	
24号土壌	4	10YR 4/2 黑褐色	褐色	砂質シルト		喀褐色シルトをブロック状に含む	
	1	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト			
	2	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト		黄褐色シルトをブロック状に含む	
	3	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト			
	4	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト		明黄褐色シルトをブロック状に含む	
25号土壌	5	10YR 4/6 にぼい黄褐色	褐色	砂質シルト			
	1	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト		炭を少しある	
	2	10YR 4/2 灰褐色	褐色	シルト		炭を少量含む	
26号土壌	3	10YR 4/2 黑褐色	褐色	シルト		ブロック状の灰黃褐色シルトと少量の焼土・炭を含む	
	1	10YR 4/2 喀褐色	褐色	シルト		粗い粒子で鐵化鉄とわずかに炭化物を含む	
	2	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		炭化物・鐵化鉄を含む	
	3	10YR 4/2 喀褐色	褐色	粘土質シルト		鐵化鉄・砂粒を含む	
27号土壌	4	10YR 4/2 黑褐色	褐色	粘土質シルト		鐵化鉄・炭化物を多く含む	

面で292×140cm、深さは確認面より4~26cmで、両側の壁は削られて遺存状態が悪い。断面形は舟底形でやや急な立ち上がりを呈す。確認面の上面には灰黄褐色粘土質シルトの括がりが認められた。遺物は1層下面より須恵器甕(A201:第24図)が出土した。

以上、出土遺物に中世陶器が含まれる4号土壌と18号土壌は中世に属し、平安時代の溝跡である6号溝に切られる27号土壌は平安時代の造構と考えられるが、その他の上層については、出土遺物が乏しく時期が判然としないが、他造構との関連などからみて、中世に属するものと考えられる。



第12図 土壌実測図(3)



第13図 28・30号土壤、1号焼土遺構実測図

### 3. 焼土遺構

調査区南辺中央部に位置し、確認面で平面形が足跡形で、最大幅182cm、最小幅62cmの土壤である。断面形は逆台形で深さ12cmを計り、堆積土は各層とも焼土粒を含み、11層はオリーブ色の焼土粒（径5～15mm）と木炭を含む焼土層である。堆積土中よりロクロ使用痕のある土師器・环の口縁部と底部の破片を出土しているが、平安時代に属する6号溝を切っており、時期

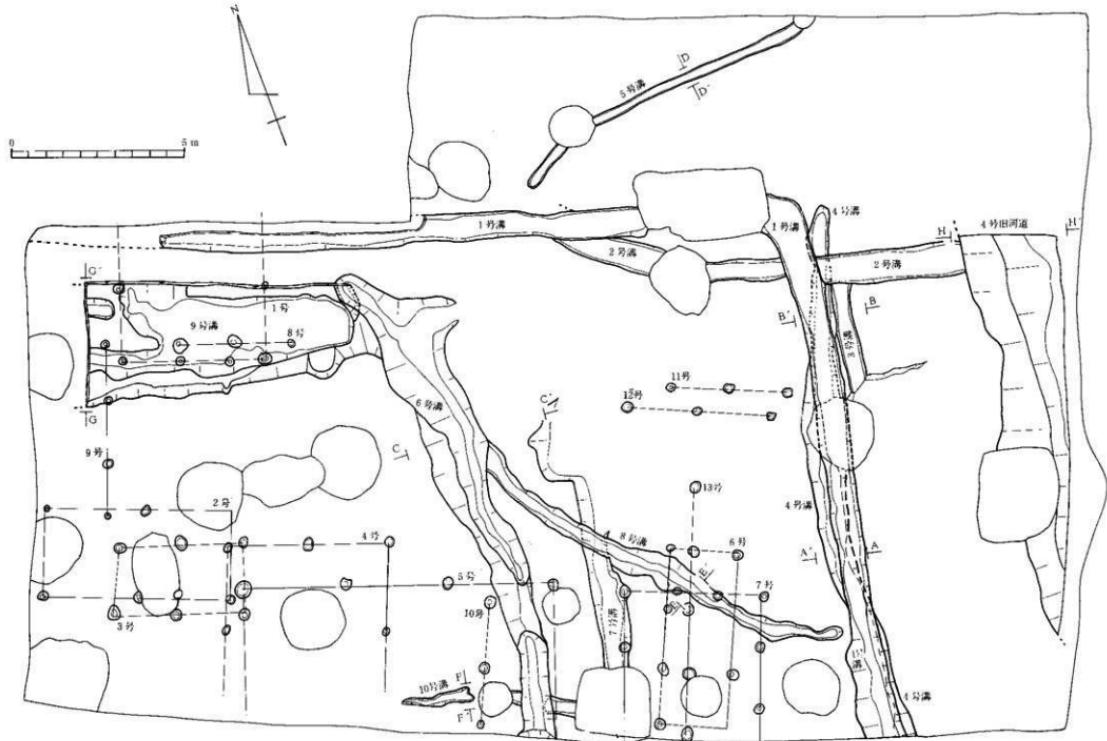
第6表 28号・30号土壤、1号焼土造構土層記表

造 構	層位	土 色		土 性		そ の 他		
		1	10YR 5/6 黒褐色	シルト質粘土	パミスを少量含む	2	10YR 5/6 黑褐色	砂質粘土
28号土壤	1	10YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	白い砂粒、鐵化鉄を多く含む				
	2	10YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	鐵化鉄をわずかに含む				
	3	10YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	白い砂粒、鐵化鉄を含む				
	4	7.5YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	白い砂粒、鐵化鉄を含む				
	5	10YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	白い砂粒、鐵化鉄を含む				
30号土壤	1	10YR 5/6 に近い黄褐色	粘土質シルト	白い砂粒、鐵化鉄を多く含む				
	2	10YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	鐵化鉄をわずかに含む				
	3	10YR 5/6 黑褐色	シルト質粘土	白い砂粒、鐵化鉄を含む				
1号 焼 上 造 構	1	7.5YR 5/6 黑褐色	シルト	白い砂粒、燒土粒を含む				
	2	10YR 5/6 墓褐色	シルト	燒土粒を少々含む				
	3	10YR 5/6 黑褐色	シルト	燒土粒を含む				
	4	10YR 5/6 黑褐色	シルト	燒化物・灰・燒土粒を多量に含む				
	5	10YR 5/6 黑褐色	シルト	燒化物を多量に含む				
	6	10YR 5/6 墓褐色	シルト	燒化物・燒土粒を多量に含む				
	7	10YR 5/6 黑褐色	粘土質シルト	燒化物・燒土粒を多量に含む				
	8	10YR 5/6 黑褐色	シルト	燒土粒を少々含む				
	9	10YR 5/6 黑褐色	シルト	粒子が荒い				
	10	10YR 5/6 黑褐色	粘土質シルト	燒化物を多く含み、磁粒子の燒土を含む				
	11	10YR 5/6 黑褐色	シルト	統一。10YR 5/6 オリーブ色の燒土粒(5mm~15mm)と木炭を含む 地山 10YR 5/6 に近い黄褐色	粒子が荒い (基本層位V層に対応)			

第7表 土壤一覧表

No.	平面形	断面形	大きさ(cm)	深さ(cm)	そ の 他
4	横円形	弁底形	146×114	30	9号溝を切る。土築器(ソイ、斐)、須恵器、中陶器片
8	不整横円形	逆台形	122×82以上	96	7号井戸J・1号溝に切られる。
11	円形	舟底形	110×110	48	ピットに切られる。
12	隅丸方形	舟底形	126×30以上	66	
13	不整方形	走合形	92×66	34	10号溝を切る。
18	不整横円形	舟底形	234×136	40	青縞(80)破片。3号井戸に切られ、6号井戸を切る。
19	不整円形	舟鉢形	86×72	26	須恵器(ソイ)
20	不整方形	逆台形	86×82	30	9号溝を切る。
21	不整横円形	逆台形	116×82	34	
22	不整横円形	舟底形	80×36	28	
23	隅丸方形	舟底形	68×56	18	
24	隅丸長方形	舟底形	78×220以上	20	1号溝に切られ、25号上塙、9号溝を切る。
25	隅丸長方形	逆台形	190×98	4	24号土壤・26分土壤に切られ、9号溝を切る。
26	不整円形	舟底形	126×98	22	ピットに切られ、25号上塙、9号溝を切る。
27	隅丸長方形	舟底形	292×140	16	6号溝に切られ、9号溝を切る。須恵器(斐)
28	円形	走合形	58×52	22	
29	不整横円形	逆台形	100×30	10	
30	不整横円形	舟底形	126×42	14	
31	不整横円形	逆台形	32×16	6	

性格ともに判然としない。



第14図 振立柱建物跡・振立柱列・溝路平面図

#### 4. 溝 跡

溝跡は調査区内より合計10条検出されたが、他造構との重複ないし、調査区外に延びているためにその全体を知り得るものはない。

1号溝 調査区の北側で東西方向、東側で屈曲して南に延びる溝で、確認面で上端幅80cm、底幅70cm、深さ20cm程度、断面形が逆台形の急な立ち上がりの壁をもつ。南北方向部分では2層の堆積層（上層は褐色砂質シルト層、下層は暗褐色ないし黒褐色粘土質シルト層）に分かれ植物遺体を多く含み、須恵器壺（A209：第23

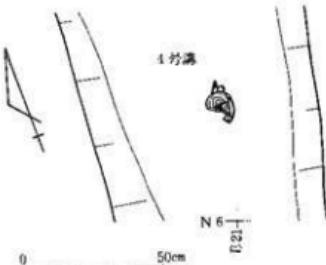
図、図版13）、中世陶器片を出土している。2号溝、4号溝、8号土壤、16号土壤を切っている。

2号溝 調査区をN-12ラインに沿って東西方向に延びる溝で、確認面で上端幅70cm、底幅70cm、深さ7cm程度、断面形が逆台形である。1号溝、10号井戸、4号旧河道に切られ、3号溝、4号溝を切っている。

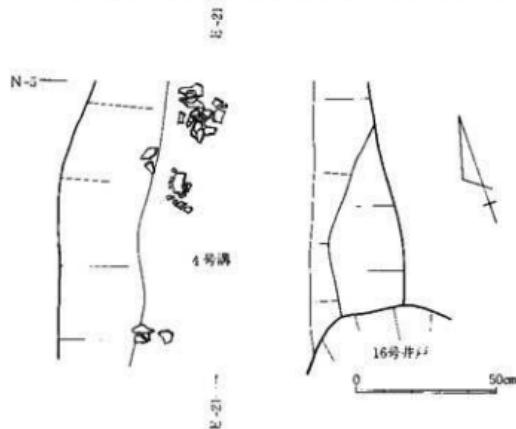
3号溝 1号溝の東側に平行して南北方向に延びる溝であるが、残存総長約3.3mと短く、確認面で上端幅50cm、底幅50cm、深さ10cm程度、断面形が逆台形である。2号溝に切られている。

4号溝 1号溝の屈曲点の東約1mの地点から南北方向に1号溝とほぼ重複して検出された溝で、確認面で上端幅

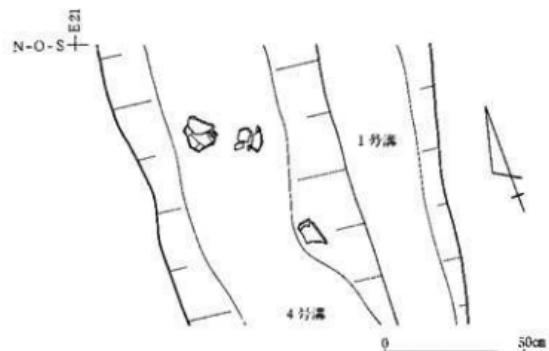
60cm、底幅40cm、深さ20cm程度、断面形が逆台形である。16号井戸跡の北約80cmの底面より土師器壺（A004：第16・22図、図版12）を調査区南辺の底辺より表杉ノ入式の土師器壺を2点（A009・A010：第17図・23図）と同様（A011：第18・23図）、倒立の土師質の土器（A



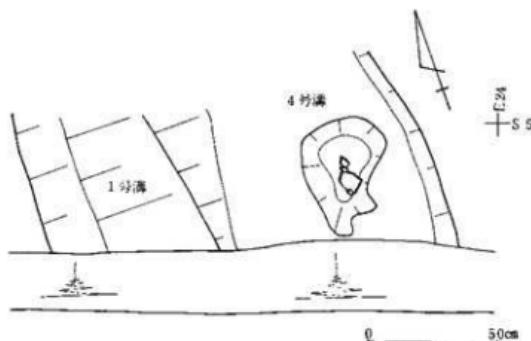
第15図 土師質の土器壺A101出土状況図



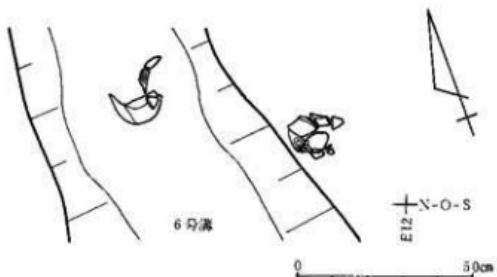
第16図 土師器壺A004出土状況図



第17図 土師器壺A009・A010(南側)出土状況図



第18図 土師器壺A001出土状況図

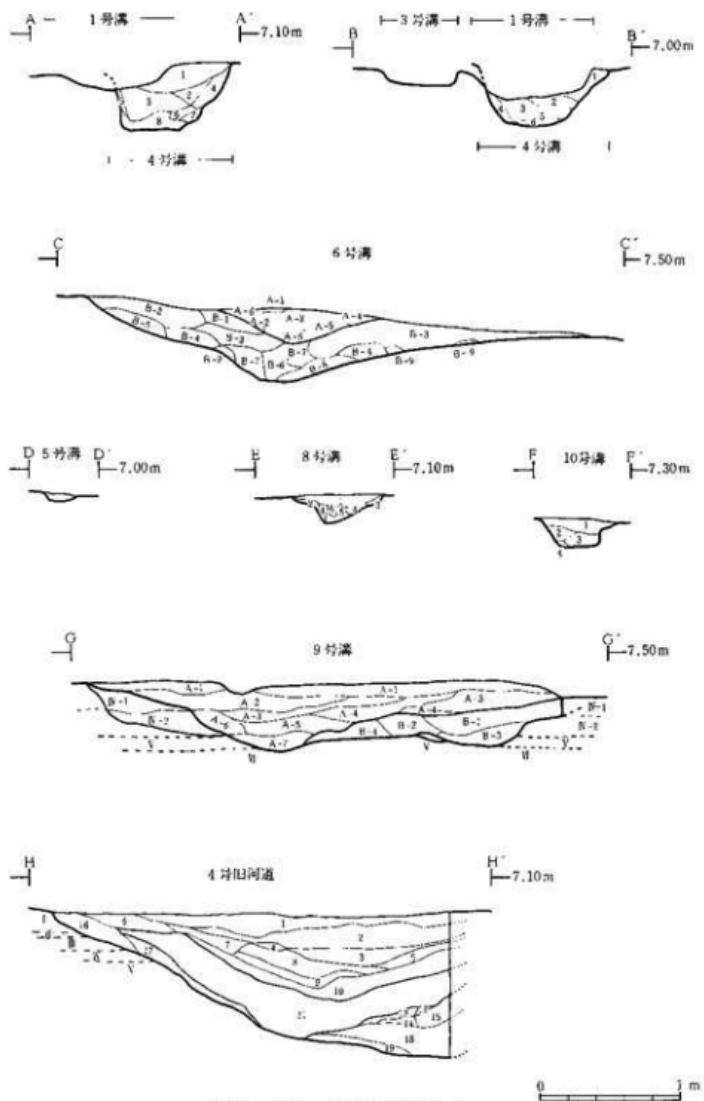


第19図 須恵器壺A207・A208(東側)出土状況図

101:第15・23図、図版12〉を出土し、1号溝、2号溝に切られる。

5号溝 調査区北側を東西方向に延びる溝で、確認面で上端幅30cm、底幅24cm、深さ10cm程度、断面形が逆台形である。8号井戸跡に切られている。

6号溝 調査区中央部を南北方向に延びる溝で、調査区の西側微高地（標高約7.20m）と東側低地（約6.90m）を全画している。確認面での上端幅約100cm、底幅30cm、深さ40cm程度、断面形は西側が急な、東側が緩やかな立ち上がりを示す舟底形で、東側の落ちこみラインが不明瞭である。堆積土はA層とB層との間に堆積の差異が認められ、時間的なずれがあるものと考えられる。A-1層から須恵器壺2点（A203:第24図、図版13、A205:第24図、図版13）、B-1層とB-2層からは墨



第20図 溝跡・4号旧河道土層図

第8表 溝跡土層註記表

地層	番号	土	色	土性	その他の	地層	七	色	土性	その他の		
	1	JOYRN	黑	褐色	粘土質シルト	0.1m粒と少量の礫を含む	A-1	JOYRN	褐	褐色	シルト質砂	バースを多く含む
	2	JOYRN	N	二つの黒褐色	粘土質シルト	少量の白い砂粒と礫化物を含む	2	JOYRN	C.5m	黄褐色	シルト質砂	バースをほとんど含む。少量の白いシ
4	3	JOYRN	N	灰 黄褐色	シルト質粘土	礫化物を含む	3	JOYRN	C.5m	黄褐色	シルト	リトと遺物を多く含む
H	4	JOYRN	N	褐 褐色	シルト質粘土	礫化物を多く含む	4	JOYRN	N	にぶい黄褐色	粘土質砂	白いシルト(白い風呂?)を多く含み、その
I	5	JOYRN	褐	褐色	シルト質粘土	礫化物を多く含む	5	JOYRN	N	にぶい黄褐色	粘土質砂	半層の部分もあり、上層より薄出
A-	6	2.5 YRN	褐	黄褐色	シルト質粘土	礫化物とブロック状の砂を含む	6	JOYRN	N	にぶい黄褐色	粘土質砂	バースを多く含み、馬糞土
A-	7	7.5 YRN	黑	褐色	粘土質シルト	礫化物を含み、ブロック状の黒褐色の粒土	7	JOYRN	N	灰 黄褐色	砂質粘土	バースを含む。マンゴンを薄出中に含む
A-	8	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	礫化物を含み、ブロック状の黒褐色の粒土	8	JOYRN	N	にぶい黄褐色	砂質粘土	バースを含む。馬糞土
	1	10YRN	黑	褐色	粘土質シルト	礫化物、白い砂粒を少量含む	9	10YRN	褐	褐色	粘土質砂	マンゴンを薄出中に含む
	2	10YRN	黑	褐色	粘土質シルト	白い砂粒を含む	10	10YRN	褐	褐色	粘土質砂	バースを含まない
	3	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	少量の礫化物とブロック状の黒褐色粒土を含む	B-1	10YRN	黑	褐色	粘土質砂	バースと薄出中のマンゴンを含む。馬糞土
B	4	10YRN	黑	褐色	粘土質シルト	白い砂粒を含む	2	10YRN	褐	褐色	砂質粘土	少量のバースと多発の礫化物、マンゴンを含む
B'-	5	10YRN	黑	褐色	粘土質シルト	バースを含む	3	10YRN	褐	褐色	砂質粘土	バースを含まない
B'	6	10YRN	黑	褐色	粘 土	白い砂粒を含む	4	欠	褐	褐色	砂質粘土	バースを含まない
A-1	1	10YRN	黑	褐色	砂質シルト	—	B-1	10YRN	褐	褐色	砂質粘土	—
	2	2.5 YRN	オーブン褐色	シルト	—	2	10YRN	褐	褐色	砂	—	
	3	10YRN	黑	褐色	砂質シルト	白い砂粒を多く含む	3	10YRN	褐	褐色	粘土質シルト	—
	4	10YRN	黑	褐色	砂質シルト	白い砂粒を多く含む	4	10GYN	褐	褐色	砂質シルト	礫化物を多く含む
	5	10YRN	黑	褐色	粘 土	白い砂粒を含む	5	10YRN	灰 黄褐色	粘土質シルト	白い砂粒を含む	
	6	10YRN	黑	褐色	粘 土	白い砂粒を含む	6	10YRN	褐	褐色	粘土質シルト	礫化物をわずかに含む
	7	10YRN	褐	褐色	シルト	白い砂粒を少量含む	7	10YRN	褐	褐色	粘土質シルト	礫化物を含む
	8	10YRN	褐	褐色	粘 土	白い砂粒を含む	8	7.5 YN	オーブン褐色	シルト	シルト質粘土	—
	9	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	9	10YRN	オーブン褐色	シルト	シルト質粘土	—
	10	10YRN	黑	褐色	粘土質シルト	白い砂粒を含む	10	5 YN	オーブン褐色	シルト	シルト質粘土	—
	11	10YRN	N	にぶい黄褐色	粘土質シルト	白い砂粒を含む	11	10YRN	灰 黄褐色	粘土質シルト	10GYNの細粒風化分離シルトとの合算	—
	12	10YRN	N	にぶい黄褐色	砂質粘土	白い砂粒を含む	12	2.5 YRN	オーブン褐色	砂	—	—
	13	5 BGX	褐	褐色	砂	—	13	2.5 GYN	褐	褐色	砂	—
	14	7.5 GYN	褐	褐色	砂	—	14	7.5 GYN	褐	褐色	砂	粘土質砂
	15	2.5 YRN	オーブン褐色	砂	—	15	2.5 YRN	オーブン褐色	砂	粘土質砂	—	
	16	10YRN	灰 黄褐色	シルト	—	16	10YRN	灰 黄褐色	シルト	粘土質シルト	—	
	17	10YRN	N	にぶい黄褐色	粘土質シルト	—	17	10YRN	N	にぶい黄褐色	粘土質シルト	—
	18	5 GYN	褐	褐色	砂	—	18	5 GYN	褐	褐色	砂	—
	19	10GYN	褐	褐色	シルト質砂	—	19	10GYN	褐	褐色	シルト質砂	—
	20	2.5 YN	褐	褐色	砂	—	20	2.5 YN	褐	褐色	砂	礫化物を含む(基盤部含む)
	21	7.5YRN	黑	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	21	7.5YRN	黑	褐色	シルト質粘土	バースを含む
	22	7.5YRN	褐	褐色	粘土質粘土	白い砂粒を含む	22	7.5YRN	褐	褐色	粘土	—
	23	10YRN	N	にぶい黄褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	23	7.5 YN	オーブン褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	—
	24	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	24	7.5 GYN	褐	褐色	砂	—
	25	10YRN	N	にぶい黄褐色	粘土質粘土	白い砂粒を含む	25	7.5 YN	オーブン褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	—
	26	10YRN	N	にぶい黄褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	26	7.5 GYN	褐	褐色	砂	—
	27	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	27	10YRN	褐	褐色	砂	—
	28	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	28	10YRN	褐	褐色	砂	—
	29	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	29	10YRN	褐	褐色	砂	—
	30	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	30	10YRN	褐	褐色	砂	—
	31	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	31	10YRN	褐	褐色	砂	—
	32	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	32	10YRN	褐	褐色	砂	—
	33	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	33	10YRN	褐	褐色	砂	—
	34	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	34	10YRN	褐	褐色	砂	—
	35	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	35	10YRN	褐	褐色	砂	—
	36	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	36	10YRN	褐	褐色	砂	—
	37	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	37	10YRN	褐	褐色	砂	—
	38	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	38	10YRN	褐	褐色	砂	—
	39	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	39	10YRN	褐	褐色	砂	—
	40	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	40	10YRN	褐	褐色	砂	—
	41	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	41	10YRN	褐	褐色	砂	—
	42	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	42	10YRN	褐	褐色	砂	—
	43	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	43	10YRN	褐	褐色	砂	—
	44	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	44	10YRN	褐	褐色	砂	—
	45	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	45	10YRN	褐	褐色	砂	—
	46	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	46	10YRN	褐	褐色	砂	—
	47	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	47	10YRN	褐	褐色	砂	—
	48	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	48	10YRN	褐	褐色	砂	—
	49	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	49	10YRN	褐	褐色	砂	—
	50	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	50	10YRN	褐	褐色	砂	—
	51	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	51	10YRN	褐	褐色	砂	—
	52	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	52	10YRN	褐	褐色	砂	—
	53	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	53	10YRN	褐	褐色	砂	—
	54	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	54	10YRN	褐	褐色	砂	—
	55	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	55	10YRN	褐	褐色	砂	—
	56	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	56	10YRN	褐	褐色	砂	—
	57	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	57	10YRN	褐	褐色	砂	—
	58	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	58	10YRN	褐	褐色	砂	—
	59	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	59	10YRN	褐	褐色	砂	—
	60	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	60	10YRN	褐	褐色	砂	—
	61	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	61	10YRN	褐	褐色	砂	—
	62	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	62	10YRN	褐	褐色	砂	—
	63	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	63	10YRN	褐	褐色	砂	—
	64	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	64	10YRN	褐	褐色	砂	—
	65	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	65	10YRN	褐	褐色	砂	—
	66	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	66	10YRN	褐	褐色	砂	—
	67	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	67	10YRN	褐	褐色	砂	—
	68	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	68	10YRN	褐	褐色	砂	—
	69	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	69	10YRN	褐	褐色	砂	—
	70	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	70	10YRN	褐	褐色	砂	—
	71	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	71	10YRN	褐	褐色	砂	—
	72	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	72	10YRN	褐	褐色	砂	—
	73	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	73	10YRN	褐	褐色	砂	—
	74	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	74	10YRN	褐	褐色	砂	—
	75	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	75	10YRN	褐	褐色	砂	—
	76	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	76	10YRN	褐	褐色	砂	—
	77	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	77	10YRN	褐	褐色	砂	—
	78	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	78	10YRN	褐	褐色	砂	—
	79	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	79	10YRN	褐	褐色	砂	—
	80	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	80	10YRN	褐	褐色	砂	—
	81	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	81	10YRN	褐	褐色	砂	—
	82	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	82	10YRN	褐	褐色	砂	—
	83	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	83	10YRN	褐	褐色	砂	—
	84	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	84	10YRN	褐	褐色	砂	—
	85	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	85	10YRN	褐	褐色	砂	—
	86	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	86	10YRN	褐	褐色	砂	—
	87	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	87	10YRN	褐	褐色	砂	—
	88	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	88	10YRN	褐	褐色	砂	—
	89	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	89	10YRN	褐	褐色	砂	—
	90	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	90	10YRN	褐	褐色	砂	—
	91	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	91	10YRN	褐	褐色	砂	—
	92	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	92	10YRN	褐	褐色	砂	—
	93	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	93	10YRN	褐	褐色	砂	—
	94	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	94	10YRN	褐	褐色	砂	—
	95	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	95	10YRN	褐	褐色	砂	—
	96	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	96	10YRN	褐	褐色	砂	—
	97	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	97	10YRN	褐	褐色	砂	—
	98	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	98	10YRN	褐	褐色	砂	—
	99	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	99	10YRN	褐	褐色	砂	—
	100	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	100	10YRN	褐	褐色	砂	—
	101	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	101	10YRN	褐	褐色	砂	—
	102	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	102	10YRN	褐	褐色	砂	—
	103	10YRN	褐	褐色	シルト質粘土	白い砂粒を含む	103	10YRN	褐	褐色	砂	—
	104	10YRN										

第9表 溝跡一覧表

( ) 内は最大・最小値を示す 単位cm

No.	上端幅	底 幅	深 さ	断面形	そ の 他
1	(120) 80 (32)	(110) 70 (20)	(85) 20 (6)	逆 台 形	須恵器坏(A209)、中世陶器片
2	70 (60)	60 (32)	7 (5)	逆 台 形	
3	50 (42)	46 (40)	10 (7)	逆 台 形	
4	60 (40)	40 (22)	20 (8)	逆 台 形	土師器壺(A004)、同坏(A009、A010、A011) 土師質の土器(A101)
5	30 (22)	24 (16)	10 (4)	逆 台 形	
6	100 (62)	30 (10)	40 (30)	舟 底 形	須恵器壺(A203、A205) 須恵器坏(墨書き下)(A207、A208) 丸皿(A503)
7	80 (68)	50 (40)	5 (2)	逆 台 形	
8	60 (18)	20 (12)	15 (5)	舟 底 形 (下部V字状)	須恵器坏(A210)、土鍬(鉈頭)
9	200 (170)	150 (120)	35 (20)	舟 底 形	土師器壺(A001)、同坏(A008) 須恵器壺(A202)、半瓦(A501、A502)
10	50 (20)	40 (16)	20 (8)	逆 台 形	

7号溝 調査区中央部を6号溝の東側に平行して南北方向に延びる溝で、確認面で上端幅80cm、底幅50cm、深さ5cm程度、断面形が逆台形である。約5m程残存しており、8号溝に切られている。

8号溝 調査区中央部から南東に延びる溝で、確認面で上端幅60cm、底幅20cm、深さ15cm程度、断面形が下部でV字状となる舟底形である。須恵器坏(A210:第23回)の他、E-18ライン付近より土鍬を1点出土した。6号溝に切られ、7号溝を切っている。

9号溝 調査区北西部を東西方向に延びる溝で、確認面で上端幅2m、底幅1.5m、深さ35cm程度、断面形が舟底形である。下部からは東西方向に延びる2条の溝の痕跡が確認された。遺構確認面(Ⅳ層)から深さ20cm程のところに白色シルト(火山灰か?)を多く含む層(A-3層)があり、5cm程の單一層となっている部分もある。この層の上面からは、多量の土師器、須恵

器、瓦の破片を出土し、土師器甕（A001：第22図、図版12、A005：第22図）、土師器壺（A008：第22図）、須恵器甕（A202：第24図）、平瓦（A501：第25図、図版15、A502：第25図、図版15）△～4層、A～7層、B～1層の各層からは馬齒を出土していることから、平安時代の捨場として使われていたと考えられる。1号井戸、4号・20号・24号・25号・26号土壤、6号溝に切られている。

10号溝 調査区南辺中央部を東西方向に延びる溝で、確認面で上端幅50cm、底幅40cm、深さ20cm程度、断面形が舟底形である。6号溝、10号土壤に切られている。

以上、出土遺物、重複関係よりみて、4号、6号、7号、8号、9号、10号の各溝は平安時代に、1号、2号、3号、5号の各溝は中世に属するものと考えられる。

## 5. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は掘立柱列も含めて13棟確認されたが、柱穴は調査区全域で約240を数え、さらに多くの建物が存在していたと考えられるが、明確な建物跡として確認されるに至らなかった。建物跡は6号溝の西側から多く（8棟）検出され、残りも6号溝と1号溝とに狭まれた範囲から検出されている。柱穴掘り方からの出土遺物は少なく、1号、5号建物跡の柱穴から土師器甕の体部片を出土した他には、2号建物跡の柱穴から中世陶器片を出土しただけである。柱穴の大きさは確認面で直径9～44cmで形は一様でなく、柱痕跡は検出されたもので直径10～12cm程度である。

1号掘立柱建物跡 桁行3間、梁行1間以上と考えられる東西棟建物跡である。南北柱列の方向はN-19°E、柱間寸法は桁で103～171cm、梁で206cm、桁行総長417cm、梁行総長206cm以上である。柱穴の掘り方は確認面でほぼ円形で、直径は20～36cm、深さは13～36cm、南西角の柱穴にのみ直径10cmの柱痕跡を検出した。堆積土は黒褐色シルトで炭を含み、南西角とその東隣りの柱穴から土師器甕の体部片を出土した。9号溝を切っている。

2号掘立柱建物跡 桁行2間、梁行1間の東西棟である。南北柱列はN-19°E、柱間寸法は桁で257～280cm、梁で257cm、桁行総長537cm、梁行総長257cmである。柱穴の掘り方は確認面で円形又は隅丸長方形と一様でなく、直径は18～34cm、深さは12～32cmで柱痕跡は検出されなかった。堆積土は色調がにぶい黄褐色ないし黒褐色と一様ではないシルトで炭を含み、南東角の柱穴から中世陶器片を出土した。北東角の柱穴は3号井戸に切られ確認できない。

3号掘立柱建物跡 桁行2間、梁行1間の東西棟である。南北柱列はN-18°E、柱間寸法は桁で177～200cm、梁で200cm、桁行総長377cm、梁行総長200cmである。柱穴の掘り方は確認

面で円形、楕円形、三角形と変則的で、直径は24~44cm、深さは6~39cmで、北東角の柱穴から柱痕跡が検出された。堆積土は灰黄褐色ないし黒褐色のシルトで炭を含み、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**4号掘立柱建物跡** 東西2間、南北1間以上で方向は不明である。南北柱列はN-22°E、柱間寸法は東西229~234cm、南北240~251cm、東西総長463cm、南北総長251cm以上である。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし歪んだ楕円形で、直径は18~36cm、深さは12~31cmである。北東角とその西隣りの柱穴から直径10cm程の柱痕跡を検出した。堆積土は黒褐色シルトで炭を含み柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**5号掘立柱列** 調査区中央部南寄りに検出された一本柱列で、東西3間、柱間寸法は297~303cm、総長897cmである。南側に展開する可能性もあるが柱穴を検出せず不明である。柱列方向は2号建物跡と同じN-19°Eである。柱穴の掘り方は確認面で歪んだ円形ないし楕円形で直径は24~40cm、深さは10~54cmである。北東角を除く3つの柱穴から直径10cm程の柱痕跡を検出した。堆積土はにぶい黄褐色ないし黒褐色のシルトで炭を含み、西端の柱穴から外面に焼痕の付着した土師器甕の体部片を出土した。

**6号掘立柱建物跡** 桁行3間、梁行1間の南北棟である。南北柱列はN-21°E、柱間寸法は桁で160~171cm、梁で194cm、桁行総長502cm、梁行総長194cmである。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし歪んだ楕円形で、直径は16~38cm、深さ15~29cmで、南東角の柱穴より直径12cmの柱痕跡を検出した。堆積土は灰黄褐色ないし黒褐色の粘土質シルトで炭を含んでいる。柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**7号掘立柱建物跡** 東西3間、南北2間以上で方向は不明である。南北柱列はN-21°E、柱間寸法は東西126~149cm、南北149~177cm、東西総長401cm、南北総長326cm以上である。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし楕円形で、直径は24~36cm、深さ19~34cmである。堆積土は黒褐色粘土質シルトで灰黄褐色粘土質シルト、炭を含み、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**8号掘立柱列** 1号建物跡東西柱列の北側に平行に検出された一本柱列で、東西2間、柱間寸法は160cm等間、総長320cmである。柱列方向は1号建物跡東西柱列と同じくE-19°Sである。柱穴の掘り方は確認面で円形で、直径は22~42cm、深さ9~28cmである。東西両端の柱穴から直径10cm程の柱痕跡を検出した。堆積土はにぶい黄褐色シルトで、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**9号掘立柱列** 調査区西辺に検出された一本柱列で、柱列方向はN-20°E、南北3間、柱間寸法は149~183cm、総長492cmである。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし楕円形で、直径は18~34cm、深さ7~38cmである。堆積土は黒褐色で、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**10号掘立柱列** 調査区南辺中央に検出された一本柱列で、柱列方向はN-24°Eである。柱

間寸法は166~189cm、総長355cmである。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし梢円形で、直径は18~34cm、深さ7~17cmである。北端の柱穴から直径12cmの柱痕跡を検出した。堆積土はにぶい黄褐色シルトで、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**11号掘立柱列** 調査区東部に検出された一本柱列で、柱列方向はE-22°-S、柱間寸法は166cm等間、総長332cmである。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし歪んだ円形で、直径は22~30cm、深さ16~36cmである。西端の柱穴から直径10cmの柱痕跡を検出した。堆積土は黒褐色シルトで炭を含み、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**12号掘立柱列** 11号柱列の南側に平行して検出された一本柱列で、柱列方向はE-23°-S、柱間寸法は200~211cm、総長411cmである。柱穴の掘り方は確認面で円形ないし方形で、直径22~26cm、深さ11~24cmである。堆積土は黒褐色粘土質シルトで炭を含み、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

**13号掘立柱列** 調査区東部に検出された一本柱列で、柱列方向はN-22°-E、柱間寸法は166~183cm、総長709cmである。柱穴の掘り方確認面で円形ないし長方形で、直径20~34cm、深さ17~35cmである。北から二番目の柱穴を除いて直径10~12cmの柱痕跡を検出した。堆積土は黒褐色ないし灰黄褐色の粘土質シルトで炭を含み、柱穴掘り方からの出土遺物はない。

## 6. その他の

調査区東部からは南北に流れる旧河道跡（4号旧河道）が検出された。確認面はV層ないしVI層であるが、トレンチ東壁・南壁の観察によれば、地表下10~60cmで5号旧河道の上面となり、断面形は2段の立ち上がりをもつ舟底形で、最も西側に広がったところでは1号溝を切っている。調査区内で河道跡を掘り下げたところ、緩やかな立ち上がりをみせた後、ほぼ平坦な川底を検出した。出土遺物には、土師器甕の体部片1点、須恵器甕の体部片1点、中世陶器片6点、石臼破片2点（C-001：第25図、図版15、C-002）がある。調査区東壁中央部で3本の旧河道（溝か？）に切られた痕跡がある。

16号井戸の底部付近の壁（確認面より深さ約2m、井戸側壁の基本層位X層）に自然木が観察されたため、16号井戸の周囲を東西約3m、南北約4mの方形に深掘りした。その結果、直径10~50cm程度の自然流木が7本分検出された。当遺跡が立地する以前、七北田川が土砂の堆積と氾濫を繰り返し、沖積平野を形成していた頃に、水分の多い灰色の粘土質細砂とともに堆積していたものであろう。

## VI 出土遺物

出土遺物は、土師器・須恵器・中世陶器が主であり、全体の9割以上を占める。この他には青磁・瓦・小刀・古銭・石臼・木桶および舟・棹材が出土しているが少量である。出土遺物の全重量は遺物収納用コンテナにして約8箱分である。

### 1. 土 製 品

#### (1) 土師器 (A001~012)

土師器は甕と壺があり、図化できたのは甕5点 (001~005) と壺7点 (006~012) の計12点である。

〈甕〉 5個体のうち器形の全体がわかるものはA004だけで、他は欠損部分が多いものである。

A001(9号溝A-3層)は大形の長胴甕である。欠落部があるので器高は不明であるが、推定復元すると約37cmに達し、口径は24.3cmを計る。器面調整は外側の口縁が叩き目その後ロクロナデ、体部上半分がロクロ回転を利用したカキ目、下半がヘラケズリによる。内面は口縁部が縱方向のヘラナデにより調整される。外反した口縁端部は直立する。

A002(Ⅲ層)は、大形の甕の口縁部から体部の破片で口径は15.2cmを計る。体部は口径より広く最大径は18cm程度である。ロクロは使用されていない。器面調整は、外側の口縁部がヨコナデ、体部上半がハケメ調整される。内面は、口縁部ヘラナデ、体部上半ナデにより調整される。口唇部は平坦である。

A003(表採)は中形の甕で、口径は18.4cmを計る。体部径は口径より小さい。器面調整は内外面ともにロクロによる。口縁端部は直立する。

A004(4号溝1層)は小形の甕で口径17.8cm、器高13.9cm、底径7.8cmを計る。底部は回転糸切り痕を有し、器面は内外面ともロクロ調整される。

A005(9号溝)甕の体部下端から底部の破片である。底径は7.2cmで、静止糸切り痕を有す。器面は内外面ともロクロ調整される。

以上5点の甕のうち、A002以外は器面調整にロクロが使用されることから表杉ノ入式に属し、平安時代のものと考えられる(註1)。A002はロクロは使用されていないが、他遺跡において、ロクロを使用した表杉ノ入式の土器と共に伴するものに類似しており、平安時代のものと考えられる。

〈壺〉 壺は図化した7点の全てが回転糸切り痕を有し、外側が口縁から体部下端までロク

口調整され、内面はヘラミガキされる。A007以外は内面黒色処理されている。

A006(Ⅲ層) は底径に比して口径の大きな环で、内弯する体部上半が肥厚する。

A007(Ⅲ層) 底部から緩やかに立ち上がり口縁近くで一度内弯し端部が肥厚して外反する。

A008(9号溝A-1層) 底部から内弯ぎみに立ち上がり、端部が外反する。

A009(4号溝1層) 底部から丸味をもって立ち上がり、口縁端部が肥厚して外反する。

A010(4号溝1層) 底部と体部の境が不明瞭で、底部から丸味をもって立ち上がる。胎土・焼成・色調ともA009に類似する。

A011(4号溝1層) 底部から丸味をもって立ち上がる。胎土・焼成・色調ともA009に類似する。

A012(IV層) 底部から丸味のある立ち上がりを呈す。

以上の环はいずれも表形ノ入式に属するもので、平安時代と考えられる(註1)。A009~011の3点は4号溝からの出土で、器形・胎土・焼成・色調に類似性が強く認められ、同時期のものと考えることができる。また、A012もこれに近い形態のものであろう。

## (2) 土師質の土器 (A101~103)

土師器と胎土・焼成は非常に類似するが、黒斑は認められず、また、切り離した技法のわかるものは回転糸切りにより、切り離し後は調整されない。内面にはヘラミガキ調整や黒色処理も行なわれていないものである。灰色から褐色を呈す。环形のもの1点と皿形のもの2点の計3点がある。

A101(4号溝2層) 小形の环で、回転糸切り底の底部から丸味をもって立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。内外面ともロクロ調整され、灰褐色を呈して、焼きは硬い。

A102(Ⅲ層) 小さく浅い皿に、端部がわずかに広がる高台が付く。皿の体部から口縁部は直線的に外傾する。底部の切り離し技法は不明である。器面は全てロクロ調整される。灰白色から浅黄褐色を呈し、焼きは硬い。

A103(表採) 口径の割に大きな回転糸切り底の底部にわずかに体部と口縁とを作りあげただけの簡単な小形の皿である。口縁部は内弯する。灰白色からぶい橙色を呈し、焼きは硬い。

以上の3点のうち、A101は、「須恵系上器」(註2)と呼ばれている一群の土器に類するものと考えられ、平安時代に位置付けられる。他の2点も、土師器や須恵系上器とは異なるが、土師器の系譜に属するものであり、時代を考えるならば、平安時代と考えて大過ないものであろう。

### (3) 須恵器 (A201~212)

須恵器は、器形全体のわかるものは壊3点だけで、他の多くは各部の破片である。図化したものは壊2点・壺4点・壺6点の計12点である。

〈壺〉 壺は口縁部と底部の破片が各1点ある。

A201(27号上壠1層) 口縁部の破片で口径は約26cmと復元される。口頭部はわずかに外傾して立ち上がり、端部で外反し、口縁端部は肥厚して上下両方に広がる。両面ロクロ調整。

A202(9号溝A-1層) 底部から体部下端の破片で、底径は11.5cmを計る。体部外面はヘラケズリ調整、内面は底部から体部残存部までナデにより調整されている。

〈壺〉 肩部から頸部の破片1点と、底部から体部下端の破片3点の計4点がある。

A203(6号溝A-1層) 瓢部から頸部の破片で、内外面ともロクロ調整痕を有す。頸部の内径は6.4cmを計り、比較的広口の壺である。胎土は非常に緻密で、表面には透明で薄い自然釉がかかる。内外面とも灰白色から灰色を呈す。

A204(表探) 底部から体部にかけての破片で、体部下端から底部の周縁に高台が貼付けられている。底径7.6cm。内外面とも灰白色を呈し、胎土・焼成は非常に良好である。

A205(6号溝A-1層) 底部から体部にかけての破片で、体部下端から底部の周縁にA204と類似した高台が付く。灰白色を呈し、胎土に砂が多く含むが焼成は良好である。底径11.4cm。

A206(里層) 底部から体部にかけての破片で、体部下端に外側に突出した断面が三角形の高台が付く。底径は12.8cmを計る。外面には指ナデの調整痕を残す。黒っぽい灰色を呈し、胎土はやや粗いが焼成は良好である。

〈壺〉 壺には図化したもの6点があり、このうち切り離し技法からみると回転ヘラ切りのもの3点と回転糸切りのもの2点、不明1点があり、回転ヘラ切りのものには高台の付いたのも1点ある。回転糸切り底の3点のうち2点に墨書きが認められた。

A207(6号溝B-1層) 回転糸切りの底部から丸味をもって立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。内外面ともロクロ調整され、体部外面中央部に正立して「十」の墨書きがある。灰白色を呈し、胎土・焼成とも良好である。口径14.8cm、底径5.2cm、器高4.6cm。

A208(6号溝B-2層) A207と同様の形態・胎土・焼成・色調を呈し、同時期の焼成・使用・廃棄と考えられるものである。やはり体部外面中央部にA207と同一書体で「十」の墨書きがある。口径14.6cm、底径5.6cm、器高4.6cm。

A209(1号溝2層) 回転糸切りの底部から緩やかに立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。外面には、ロクロによる幅の広い凹凸が認められる。口径14.2cm、底径5.6cm、器高4.6cm。灰白色を呈し、胎土・焼成とも良好である。

A210(8号溝) 回転ヘラ切りの後にナデ調整される底部から、体部は丸味をもって立ち上

る。底径7.8cm。灰白色を呈し、胎土・焼成とも良好である。

A211(Ⅲ層) 底部から高台までの破片で、底部中央には回転ヘラ切り痕跡が残る。体部と底部の境に貼付けられた高台はやや外に広がり、端部は丸くなっている。底径7.6cm。灰色を呈し、胎土・焼成は良好である。

A212(19号土壤) 口縁から体部の破片で、口縁が外反する。体部外面にはロクロによる幅の狭い凹凸が認められる。胎土は砂を多く含むが焼成は良好で、灰白色を呈す。口径14.6cm。

以上12点の須恵器について、その製作年代を検討すると、平安時代（9～11世紀）のものと考えることができる。

#### (4) 中世陶器 (A301～307)

中世陶器は甕と鉢があり、図化したものは7点ある。図化したもの以外にも32個の少破片があり、灰オリーブ色やオリーブ色の釉がかかったものもある。

〈甕〉 口縁部片3点、体部片1点を図化した。

A301(7号井戸1層) 肩部かつ頸部にかけての破片である。破片のため口径は複元できないが、大形の甕と考えられる。口縁部は端部が受口状に近い形態を呈す。器面は内外面ともヨコナデ・ナデにより調整される。灰色を呈し、焼きは堅緻である。

A302(表探) 口縁部の破片で、口縁端部はN字状に近い形態を呈す。内外面ともヨコナデにより器面調整される。断面灰色・表面赤褐色を呈し、焼きは堅緻である。

A303(表探) 口縁部の破片で、口縁端部はA302と同様にN字状に近い形態を呈すが、下方への突出部はA302よりも発達している。内外面ともヨコナデにより器面調整される。口縁部は黒色で、他は赤褐色を呈すが、肩部には灰オリーブ色の自然釉が付着する。断面は灰色で焼きは堅緻である。

A304(表探) 押印のある大甕の体部片で、押印の形状は格子目文である。器面は外側がナデ、内側は粘土紐の接合痕をそのまま残している。内外面は黒色を呈し、断面は灰色である。

〈鉢〉 口縁部から体部の破片2点と体部から底部の破片1点の計3点を図化した。

A305(7号井戸1層) 体部から口縁へと直線的に広がる鉢で、複元によると口径は33cm程になる。器面調整はロクロによるが、残存する体部外面下端にはわずかにヘラケズリ痕跡も認められる。内面下端付近は、わずかに磨滅している。内外断面とも灰白色を呈す。

A306(7号井戸1層) A305に類似するが、器形・器厚と焼成にわずかに差が認められる。A305と同様に残存する体部下端外面にヘラケズリの痕跡が認められ、また内面には指ナデの痕跡もある。内面の下部1/4はわずかに磨滅している。内外断面とも灰白色を呈す。

A307(10号井戸5層) 体部下半から底部の破片で、底部周縁には高さ1cm、径14cmの端部が

丸い高台がついている。内外面ともロクロにより調整されるが、外面には体部下端から1cm程立ち上がった所に幅1.5cmのヘラケズリの帯が一条巡る。内面はわずかに磨滅して滑らかになっている。内外断面とも灰白色を呈す。胎土には粗い砂が多く混じるが、焼きは堅緻である。

本調査によって出土した中世陶器の主たるものは以上のようなものであるが、これらは常滑系に類するもので、赤羽一郎氏の常滑編年図表（註3）に位置付けると、甕A301～303は、Ⅲ期（鎌倉時代後半から南北朝時代中葉）にあたる。また、鉢A307はⅡ期後半ないしⅢ期（鎌倉から南北朝時代中葉）にあたる。また、横崎彰一氏の知多古窯出土陶器編年図（註4）によれば、甕A301・A303・鉢A307は、鎌倉中期から後期の年代に相当するものと考えられる。鉢A305と鉢A306は、甕A301と同時期に7号井戸に廃棄されたものであり、その製作年代も近いものと考えられる。よって、図化した中世陶器は年代に幅をもたせて考えると鎌倉時代から南北朝時代中葉まで、また年代幅を狭く考えると鎌倉時代中期から後期と考えられる。

#### （5） 青磁（A401～405）

青磁は5点出土したが、いずれも小片であって、全体の器形、文様の明らかなものはない。

A401(17号井戸1層) 瓢の口縁部から体部の破片で、体部は丸味をもって立ち上がり、口縁部はわずかに肥厚して外反する。推定口縁径は16.5cmである。内面には2条の平行沈線による「了」字形の文様が認められるが、これは薺花弁文である。胎土は灰色で、釉は灰オリーブ色を呈すが、外面下部はわずかに白濁している。

A402(表採) 瓢の体部下端の破片である。外面には縦方向に7条の沈線となる櫛目文が施され、内面には、横位に流れる3条の沈線とそれと交叉する櫛目文がみられる。胎土は灰色で、釉は灰オリーブ色を呈す。

A403(表採) 瓢の体部片である。内外面とも文様は認められない。胎土は灰色で、釉は灰オリーブ色を呈す。

A404(18号土壙3層) 瓢の体部の小破片で、外面に縱方向に比較的幅の広い凹凸が認められることから薺弁文の瓢と考えられる。胎土は灰色で、釉は緑灰色を呈す。胎土に比して釉は厚い。

A405(18号土壙3層) 瓢の体部の小破片である。文様は認められない。胎土は灰色で、釉は緑灰色を呈す。釉は厚く1mm前後ある。

以上5点の青磁のうち文様のある3点（A401・A402・A404）は、中国青磁のうち13～14世紀頃の特徴をもつものである。したがって鎌倉時代から南北朝時代のものと考えられる。

#### (6) 瓦 (A501~503)

瓦は、平瓦片2点（A501・A502—9号溝）と丸瓦片1点（A503—6号溝B層）の3点が出土した。3点とも凹面は布目が残る。凸面は、平瓦は繩目痕を有し、丸瓦はナデにより調整されている。いずれも奈良時代ないし平安時代に多賀城や陸奥国分寺に供給されたものと同類であると考えられる。

#### (7) その他の土製品 (A601)

以上のほか土製品としては擂鉢と土錘がある。

A601(4号旧河道)は擂鉢の口縁から体部の破片で、直線的な体部から肥厚して強く外反する口縁に至り、口縁の上面が平坦になっている。内面には7条からなる筋目が入っている。残存部内面の下端は著しく磨滅しており、筋目は消えている。胎土は灰色で、表面は黒色を呈し焼けはやや軟質である。A601と同形態の破片は他にも1点出土しているが、出土層位・造構は不明である。ただし、この2点の擂鉢と胎土、焼成色調が肉眼観察で同様の底部片が4号旧河道の2層中から出土しているので、3点とも旧河道中に包含されていたものと考えられる。年代はこの旧河川の年代によって考査ができる。この旧河川は、中世集落跡の上を流れたものであり、またこの他に明治以降に流路があったという伝承もないことから、中世末から近世頃の年代が考査される。したがって上記の3点の土器も中世末から近世頃のものと考えられる。

土器の他には、8号溝中より長さ5cm程の円筒形で中心に孔のある土錘が1点出土したが、調査途中で行方不明となった。

## 2. 金属製品

#### (1) 刀 (B001)

6号井戸より小刀が1点出土した。平棟平造りの直刀で、刀身前方部が欠損している。現存長12.1cm、身幅は刃の付近で2.4cm、棟幅は刃の付近で3mmを計る。茎は長さ2.8cm、棟幅3mm、刃部側2mm、茎幅は刃付近で1.4cm、茎尻付近で1.1cmを計る。目釘孔はみられない。

#### (2) 古銭 (B101~102)

2種2点が出土したが、内1点は刃を欠損する。B101は6号井戸の確認面より出土した「聖宋元宝」で建中靖国元年（西暦1101年）初鋤の北宋銭である。B102はⅢ層中より出土したもので、下部に「元」の字が読めるが、上部を欠損するため、銭名は不明である。

種 別	通 路	構 造	井	P 1												P 2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	3310	3311	3312	3313	3314	3315	3316	3317	3318	3319	3320	3321	3322	3323	3324	3325	3326	3327	3328	3329	3330	3331	3332	3333	3334	3335	3336	3337	3338	3339	33310	33311	33312	33313	33314	33315	33316	33317	33318	33319	33320	33321	33322	33323	33324	33325	33326	33327	33328	33329	33330	33331	33332	33333	33334	33335	33336	33337	33338	33339	333310	333311	333312	333313	333314	333315	333316	333317	333318	333319	333320	333321	333322	333323	333324	333325	333326	333327	333328	333329	333330	333331	333332	333333	333334	333335	333336	333337	333338	333339	3333310	3333311	3333312	3333313	3333314	3333315	3333316	3333317	3333318	3333319	3333320	3333321	3333322	3333323	3333324	3333325	3333326	3333327	3333328	3333329	3333330	3333331	3333332	3333333	3333334	3333335	3333336	3333337	3333338	3333339	33333310	33333311	33333312	33333313	33333314	33333315	33333316	33333317	33333318	33333319	33333320	33333321	33333322	33333323	33333324	33333325	33333326	33333327	33333328	33333329	33333330	33333331	33333332	33333333	33333334	33333335	33333336	33333337	33333338	33333339	333333310	333333311	333333312	333333313	333333314	333333315	333333316	333333317	333333318	333333319	333333320	333333321	333333322	333333323	333333324	333333325	333333326	333333327	333333328	333333329	333333330	333333331	333333332	333333333	333333334	333333335	333333336	333333337	333333338	333333339	3333333310	3333333311	3333333312	3333333313	3333333314	3333333315	3333333316	3333333317	3333333318	3333333319	3333333320	3333333321	3333333322	3333333323	3333333324	3333333325	3333333326	3333333327	3333333328	3333333329	3333333330	3333333331	3333333332	3333333333	3333333334	3333333335	3333333336	3333333337	3333333338	3333333339	33333333310	33333333311	33333333312	33333333313	33333333314	33333333315	33333333316	33333333317	33333333318	33333333319	33333333320	33333333321	33333333322	33333333323	33333333324	33333333325	33333333326	33333333327	33333333328	33333333329	33333333330	33333333331	33333333332	33333333333	33333333334	33333333335	33333333336	33333333337	33333333338	33333333339	333333333310	333333333311	333333333312	333333333313	333333333314	333333333315	333333333316	333333333317	333333333318	333333333319	333333333320	333333333321	333333333322	333333333323	333333333324	333333333325	333333333326	333333333327	333333333328	333333333329	333333333330	333333333331	333333333332	333333333333	333333333334	333333333335	333333333336	333333333337	333333333338	333333333339	3333333333310	3333333333311	3333333333312	3333333333313	3333333333314	3333333333315	3333333333316	3333333333317	3333333333318	3333333333319	3333333333320	3333333333321	3333333333322	3333333333323	3333333333324	3333333333325	3333333333326	3333333333327	3333333333328	3333333333329	3333333333330	3333333333331	3333333333332	3333333333333	3333333333334	3333333333335	3333333333336	3333333333337	3333333333338	3333333333339	33333333333310	33333333333311	33333333333312	33333333333313	33333333333314	33333333333315	33333333333316	33333333333317	33333333333318	33333333333319	33333333333320	33333333333321	33333333333322	33333333333323	33333333333324	33333333333325	33333333333326	33333333333327	33333333333328	33333333333329	33333333333330	33333333333331	33333333333332	33333333333333	33333333333334	33333333333335	33333333333336	33333333333337	33333333333338	33333333333339	333333333333310	333333333333311	333333333333312	333333333333313	333333333333314	333333333333315	333333333333316	333333333333317	333333333333318	333333333333319	333333333333320	333333333333321	333333333333322	333333333333323	333333333333324	333333333333325	333333333333326	333333333333327	333333333333328	333333333333329	333333333333330	333333333333331	333333333333332	333333333333333	333333333333334	333333333333335	333333333333336	333333333333337	333333333333338	333333333333339	3333333333333310	3333333333333311	3333333333333312	3333333333333313	3333333333333314	3333333333333315	3333333333333316	3333333333333317	3333333333333318	3333333333333319	3333333333333320	3333333333333321	3333333333333322	3333333333333323	3333333333333324	3333333333333325	3333333333333326	3333333333333327	3333333333333328	3333333333333329	3333333333333330	3333333333333331	3333333333333332	3333333333333333	3333333333333334	3333333333333335	3333333333333336	3333333333333337	3333333333333338	3333333333333339	33333333333333310	33333333333333311	33333333333333312	33333333333333313	33333333333333314	33333333333333315	33333333333333316	33333333333333317	33333333333333318	33333333333333319	33333333333333320	33333333333333321	33333333333333322	33333333333333323	33333333333333324	33333333333333325	33333333333333326	33333333333333327	33333333333333328	33333333333333329	33333333333333330	33333333333333331	33333333333333332	33333333333333333	33333333333333334	33333333333333335	33333333333333336	33333333333333337	33333333333333338	33333333333333339	333333333333333310	333333333333333311	333333333333333312	333333333333333313	333333333333333314	333333333333333315	333333333333333316	333333333333333317	333333333333333318	333333333333333319	333333333333333320	333333333333333321	333333333333333322	333333333333333323	333333333333333324	333333333333333325	333333333333333326	333333333333333327	333333333333333328	333333333333333329	333333333333333330	333333333333333331	333333333333333332	333333333333333333	333333333333333334	333333333333333335	333333333333333336	333333333333333337	333333333333333338	333333333333333339	3333333333333333310	3333333333333333311	3333333333333333312	3333333333333333313	3333333333333333314	3333333333333333315	3333333333333333316	3333333333333333317	3333333333333333318	3333333333333333319	3333333333333333320	3333333333333333321	3333333333333333322	3333333333333333323	3333333333333333324	3333333333333333325	3333333333333333326	3333333333333333327	3333333333333333328	3333333333333333329	3333333333333333330	3333333333333333331	3333333333333333332	3333333333333333333	3333333333333333334	3333333333333333335	3333333333333333336	3333333333333333337	3333333333333333338	3333333333333333339	33333333333333333310	33333333333333333311	33333333333333333312	33333333333333333313	33333333333333333314	33333333333333333315	33333333333333333316	33333333333333333317	33333333333333333318	33333333333333333319	33333333333333333320	33333333333333333321	33333333333333333322	33333333333333333323	33333333333333333324	33333333333333333325	33333333333333333326	33333333333333333327	33333333333333333328	33333333333333333329	33333333333333333330	33333333333333333331	33333333333333333332	33333333333333333333	33333333333333333334	33333333333333333335	33333333333333333336	33333333333333333337	33333333333333333338	33333333333333333339	333333333333333333310	333333333333333333311	333333333333333333312	333333333333333333313	333333333333333333314	333333333333333333315	333333333333333333316	333333333333333333317	333333333333333333318	333333333333333333319	333333333333333333320	333333333333333333321	333333333333333333322	333333333333333333323	333333333333333333324	333333333333333333325	333333333333333333326	333333333333333333327	333333333333333333328	333333333333333333329	333333333333333333330	333333333333333333331	333333333333333333332	333333333333333333333	333333333333333333334	333333333333333333335	333333333333333333336	333333333333333333337	333333333333333333338	333333333333333333339	3333333333333333333310	3333333333333333333311	3333333333333333333312	3333333333333333333313	3333333333333333333314	3333333333333333333315	3333333333333333333316	3333333333333333333317	333

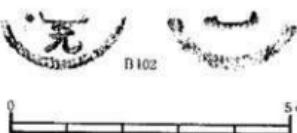
### 3. 石 製 品 (C001~002)

石製品としては石臼の破片が2点出土した。C001は4号旧河道堆積土中より出土したもので、茶臼の下臼の側縁部の破片と考えられる。石材は安山岩である。側縁部の上面幅は1.8cmを計る。他の1点(C002)も旧河道よりの出土である。部位は不明である。



### 4. 木 製 品 (D001~005)

出土した木製品には井戸枠材、桶、その他の木材片がある。



B101 聖宋元祐 6分井戸  
B102 ●●元寶 目

第21図 古 錢 拓 影

#### (1) 井戸枠材 (16号井戸)

D001は16号井戸の四角にあった隅柱のうち西南角にあったものである。ほぼ四角柱のもので長さ66cm、中央部断面の一边は6.5~7.5cmある。底面はほぼ平らである。残存部の中央付近の井戸の北壁と東壁に向いた面には横木を挿入するための方形の柄穴（北側は縦6cm、横5.5cm、東側は縦6cm、横5cm）が切ってある。柄穴は北側と東側では高さを多少ずらしており北側が高い位置にある。

D002は、D001の東向きの柄穴より南東角の隅柱にわたされた断面長方形の横木で、長さは77cm、幅は広い方で5.5cm、狭い方で4cmを計る。両先端は尖らせてある。

D003とD004は角の隅柱と隅柱の間に横木と壁にはさまれて立て並べられた側板材のうちの2点で、D003は78.5cm、幅16.5cm、厚さ3cmを計る。D004は長さ46cm、幅23cm、厚さ4cmを計る。

#### (2) 桶 (3号井戸)

桶は、側板8点と底板1枚、それに蓋の残片とからなる。側板は長さ19.5~20.5cm、中央部で幅3~5.5cm、厚さ1~1.3cmのものであるが、そのなかに長さ30cmのものも1点(D005)出土した。これは、幅3.3~4cmで、上端近くに縦2.2cm、横1.8cmの方形の孔があけられている。これには対となるものがあって、横木がわたされていたと考えられる。側板はどれも底に近い方の幅が狭くなっている。また、下端から4~5cm上った所から上端にかけて厚さ1mm程黒色

の付着物が観察される。

底板(D006)は、円形で直径は粧口の方向で21.1cm、粧口に直交して21.6cmある。厚さは1.7cm～2.4cmある。内面側にはやはり黒い付着物が観察される。

註1 加藤孝「塙釜市表杉ノ入戸塚の研究」(『宮城学院女子大学研究論文集』V 1954年)

氏家和典「東北土師器の型式分類とその編年」(『歴史14』 1957年)

註2 桑原滋郎「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」(『宮城県多賀城跡調査研究紀要』I 1974年)

桑原滋郎「宮城県多賀城調査研究所年報1971年」

註3 赤羽一郎「常滑編年図表」(『世界陶磁全集3 日本中世』小学館1977)

註4 植崎彰一「知多古窯出上陶器編年図」(『日本の考古学』VI 1967年)

## VII まとめ

今回の調査で検出された遺構は井戸跡11基、土壙19基、焼土遺構1基、溝跡10条、掘立柱建物跡13棟、柱穴を含めたビット240個である。

井戸跡は前述したとおり4つの型式に分けられ、そのうち、円形の掘り方の中に方形の素掘りをもつBタイプよりも、円形の掘り方で徐々にすぼまるCタイプが古式である。出土遺物は少量の土師器や須恵器の小破片の他、中世陶器、聖宋元宝、青磁碗の破片があり、中世以降の遺物が主であり、また近世以降の遺物を共伴しておらず、11基の井戸跡は中世に属すると考えられる。16号井戸を除くと全て素掘りの井戸であり、このため長期の使用に耐えられず、調査区内の狭い範囲に何度も掘りかえされ、井戸跡が密に分布しているものと考えられる。

土壙は、平安時代のものとしては6号溝(平安時代)に切られた27号土壙がある。中世のものとして確実なものは中世陶器片を出土した4号土壙と、3号井戸(中世)に切られ、青磁片を出土した18号土壙がある。他の土壙は時期を決定する直接資料に欠けるが、井戸跡や掘立柱建物群と同時期のものが多くあるであろう。

焼土遺構は年代決定する例証を欠くが、重複関係により6号溝(平安時代)以降のものであることだけが知られる。

溝跡は、10条のうち4号・6号・8号・9号の4条がその出土遺物から平安時代と考えられる。1号溝は、出土遺物はないが他遺構との重複関係と旧河道との関係、掘込み面から考える

と平安時代以降、近世以前の時期を与えることができる。また、1号溝は、7号井戸と16号井戸を除く8基の井戸と、掘立柱建物跡群を取り囲んでおり、これらと密接な関係が考えられる。

平安時代と考えられる6号溝は、調査区を、東西に区分（東に低く、西に高い）しているが、この溝が存在した時点においては、西側微高地上が生活の主体となっていた地区で、その中心は本調査区よりもさらに西方であったと考えられる。また、この微高地の縁辺に位置する9号溝からは930点余りの上器片や瓦片が出土したが、出土量の割には接合できるものが少ない。これは、ここから出土した上器がこの溝に捨てられた時点で毀れたのではなく、他所で毀れたものを、捨場として利用されていたこの溝に投げ捨てたことによると考えられる。

掘立柱建物跡は、掘立柱列7列を含めて13棟分確認されたが、柱穴掘り方からの出土遺物も少なく、判然としないが、中世に属する遺構と考えられ、1号溝で区画される調査区南西部からのみ検出されており、1号溝が聚落または中世村落の周囲をめぐる溝であったものと考えられる。

調査区の東部から検出された旧河道は、七北田川が現在の位置よりもかなり南西にあって南流していたことを示し、調査区南壁の土層観察から1号溝付近まで流路となっており、調査区からは近世の遺物をほとんど出土せず、近世に生活の場として使われた可能性は少なく、河道が現在のようになってから耕地として利用され、現在に至っているものと考えられる。

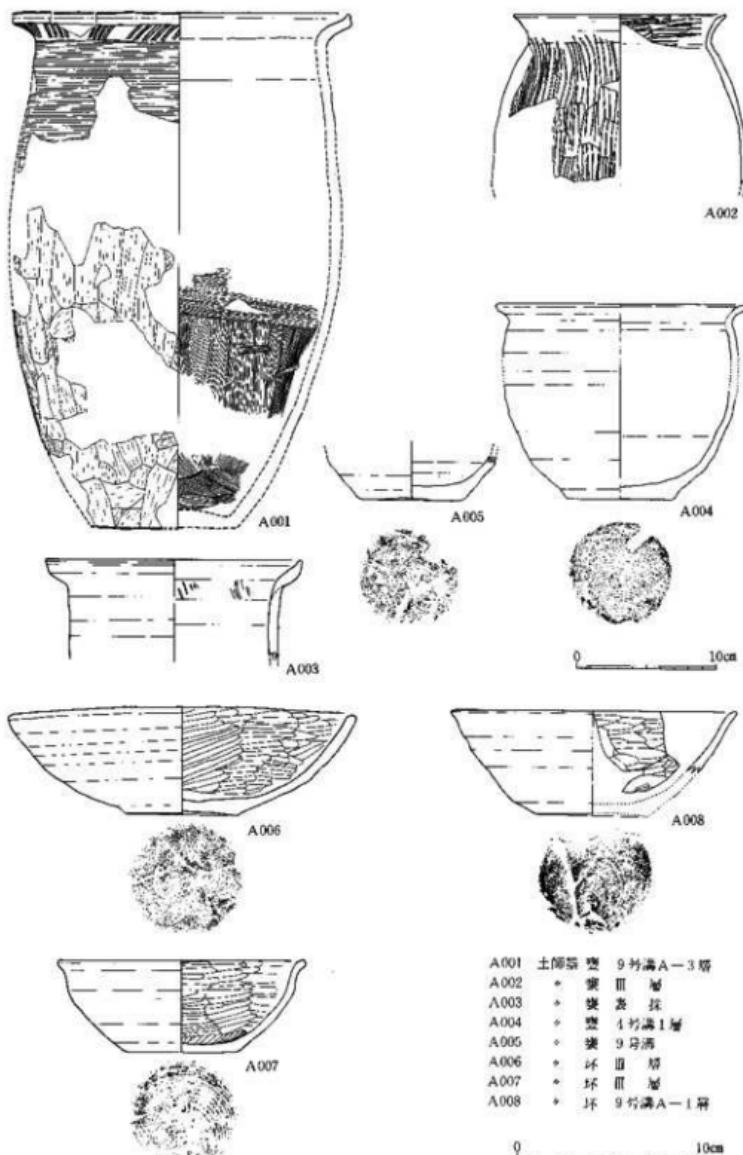
以上のように本調査区は、平安時代から中世にかけての遺構と遺物が遺存しており、平安時代には6号溝以西の微高地上に生活の中心があり、その後中世になると1号溝に囲まれた地区に井戸と土壤が繰り返し掘られ、また掘立柱建物も繰り返し建築されたものと考えられる。

尚、今回の調査では、宮城県教育委員会が昭和48年に検出したような古墳時代中期に属する遺構や遺物は検出されなかった。

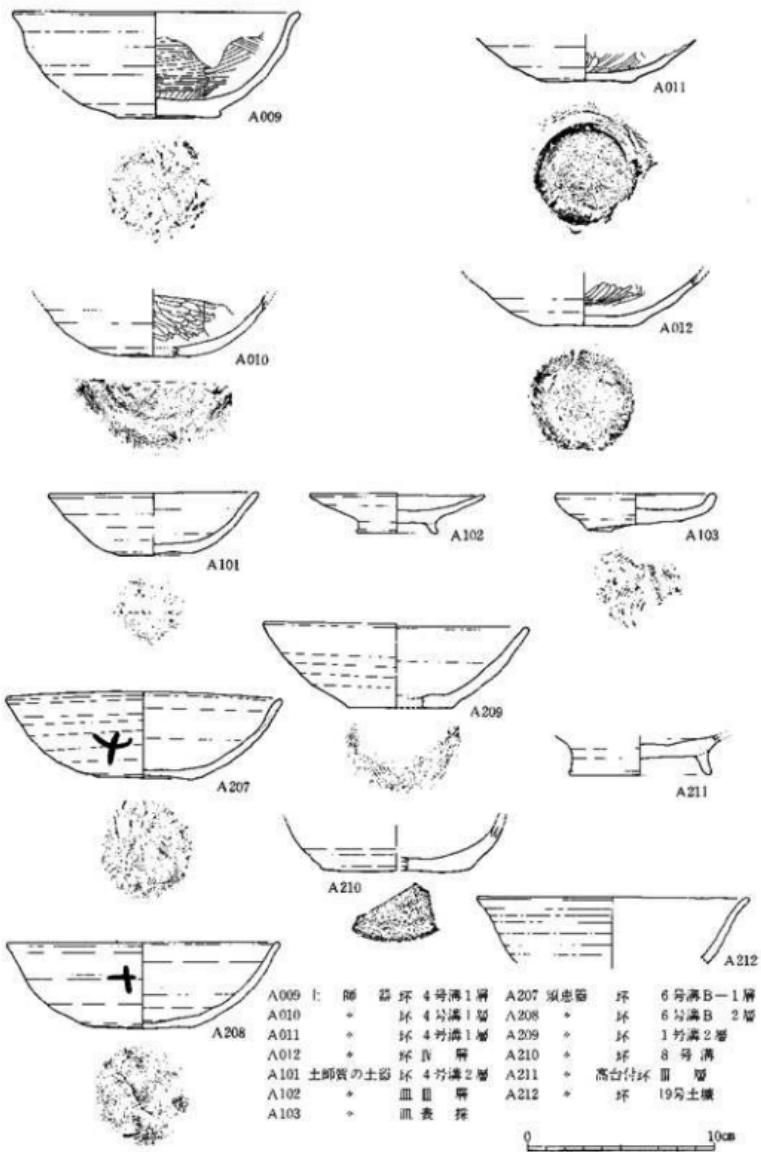
鴻ノ巣遺跡全体の性格については今後の調査をまちたい。

## 参考文献

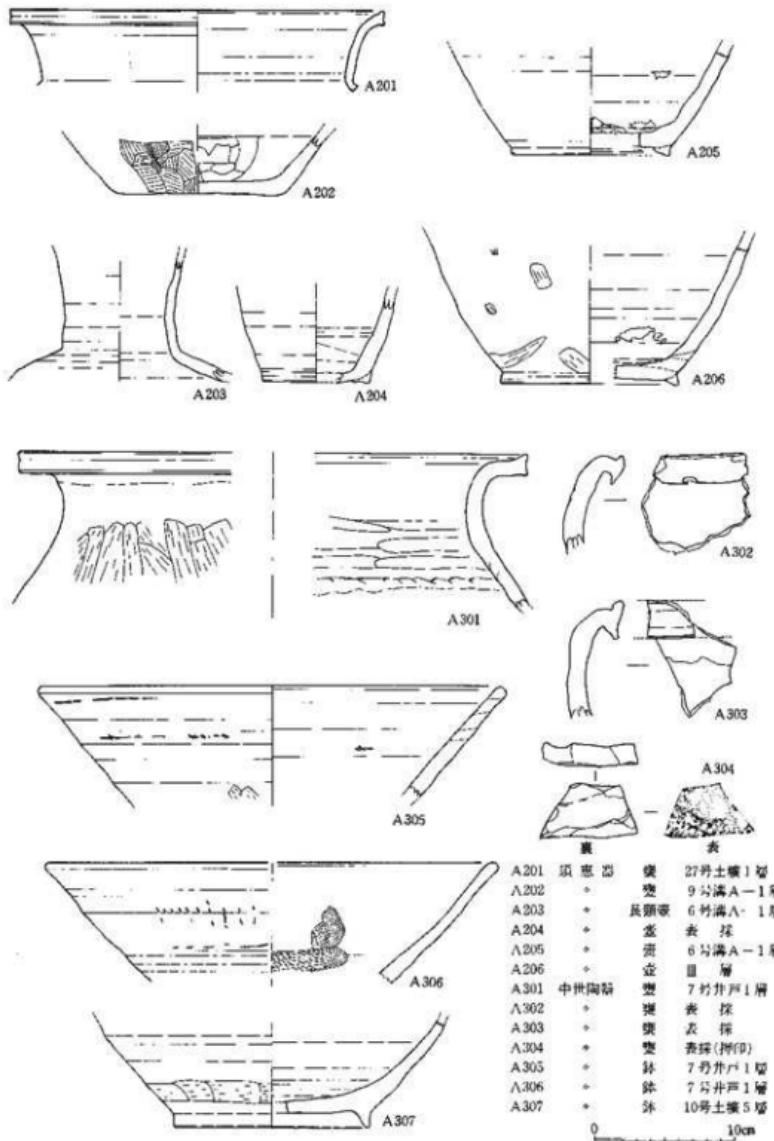
- 氏家和典 「陸奥国分寺跡出土の丸底杯をめぐって 奈良・平安期土師器の諸問題」『山形県の考古と歴史』柏倉光吉教授追席記念会編 1967
- 宮城県教育委員会 「岩切鴻ノ巣遺跡」 宮城県文化財調査報告書第30集 1974
- 柴桃正蔵 「史料仙台領内古城・館」第4巻 宝文堂 1974
- 藤沼邦彦 「宮城県地方の中世陶器窯跡（予察）」『東北歴史資料館研究紀要』第2巻 1976
- 藤沼邦彦 「宮城県出土の中世陶器について」『東北歴史資料館研究紀要』第3巻 1977
- 東京国立博物館 「日本出土の中国陶磁」 東京美術 1978
- 仙台市教育委員会 「今泉遺跡」 仙台文化財調査報告書第24集 1980
- 宮城県教育委員会 「持長寺遺跡」 宮城県文化財調査報告書第71集 1980



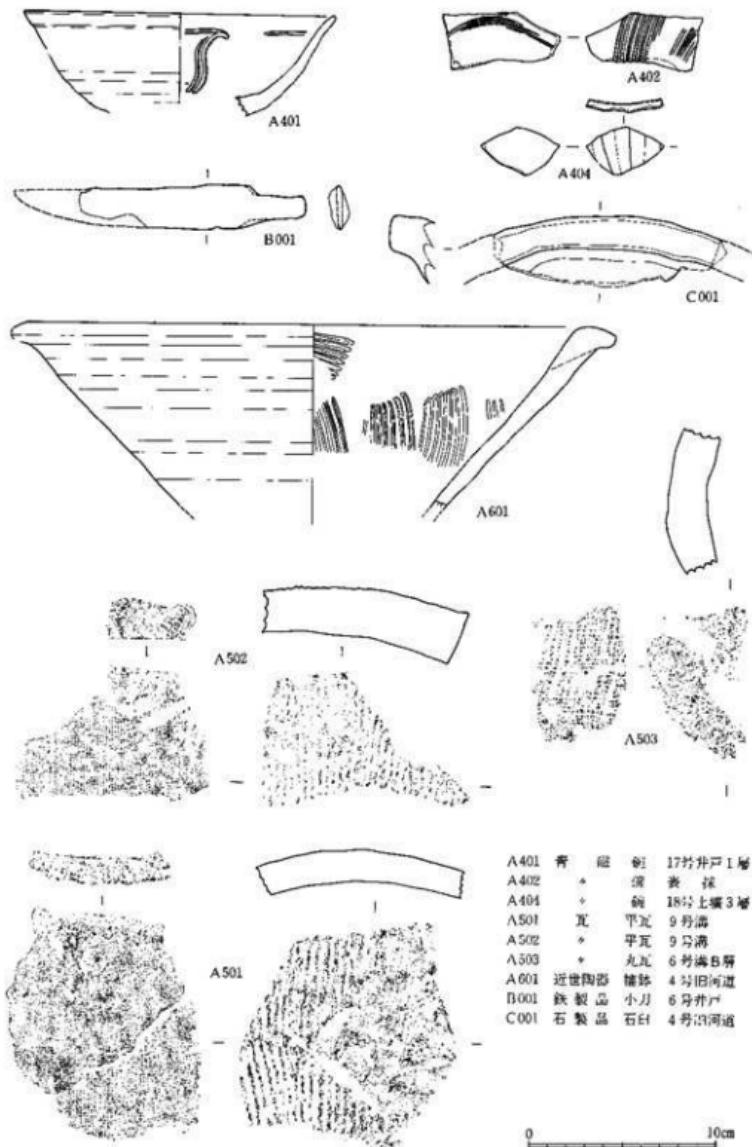
第22図 出土遺物実測図(1)



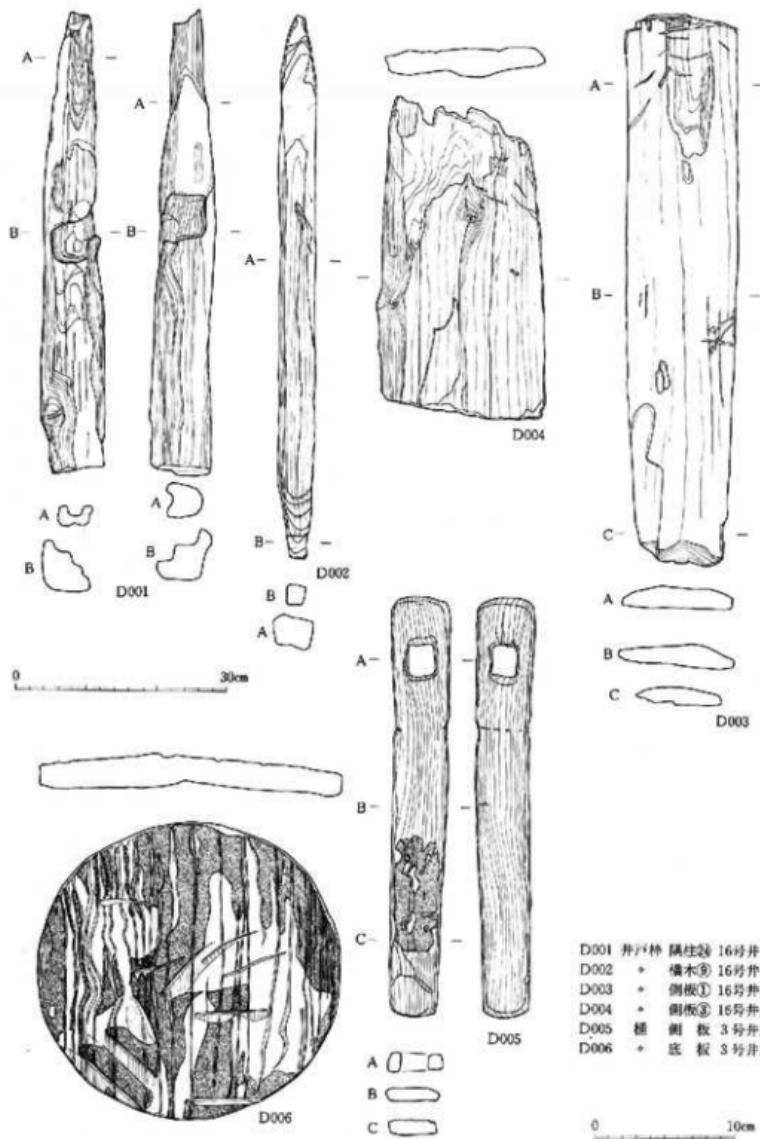
第23図 出土遺物実測図(2)



第24図 出土遺物実測図(3)



第25図 出土遺物実測図(4)



第26図 出土遺物実測図(5)



図版 1 調査区全景 (東より)



1. 調査区遠景  
(調査前・東より)



2. 16号井戸全景  
(東より)

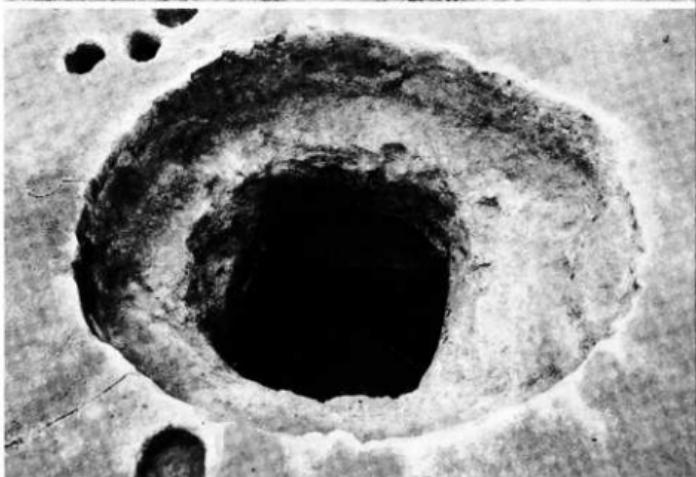


3. 16号井戸土層  
(北より)

1. 井戸枠材出土状況  
(16号井戸・南より)



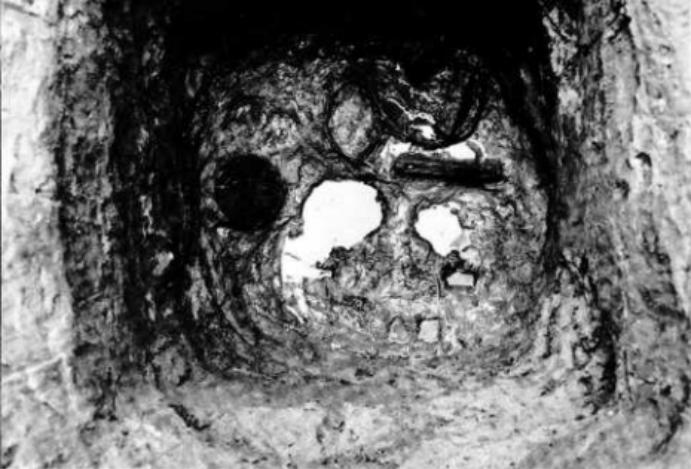
2. 3号井戸全景  
(北より)



3. 木材出土状況  
(3号井戸・西より)



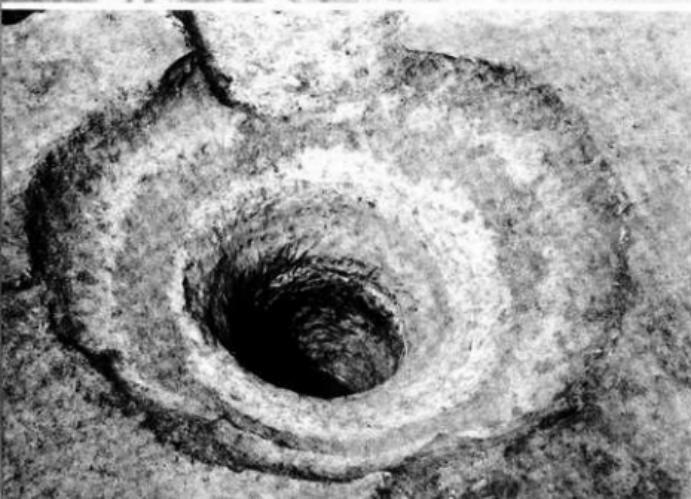
1. 桶出土状況  
(3号井戸・南より)



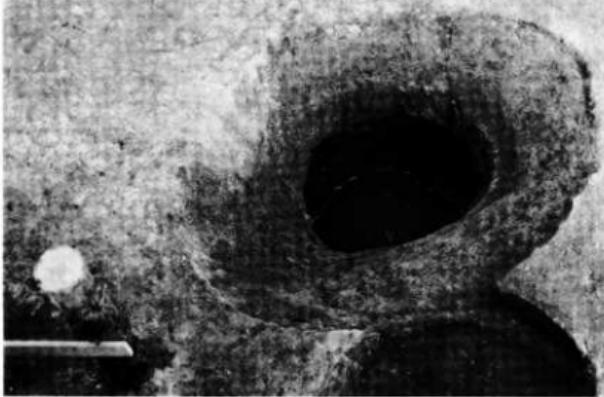
2. 5号井戸全景  
(南より)



3. 6号井戸全景  
(東より)



1. 7号井戸全景  
(西より)



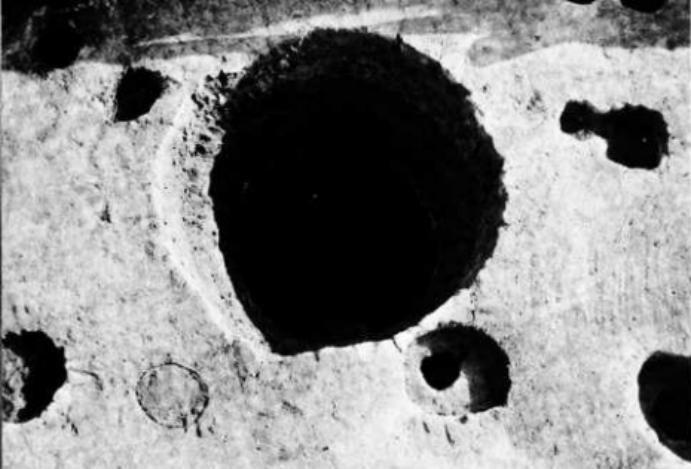
2. 9号井戸全景  
(北より)



3. 10号井戸全景  
(北より)



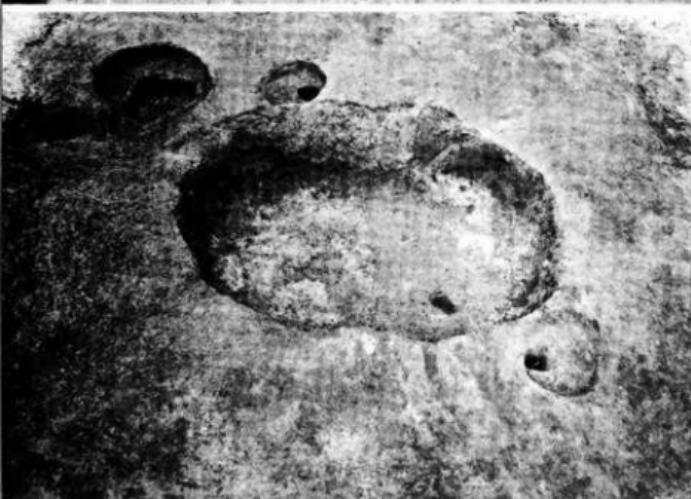
1. 15号井戸全景  
(北より)



2. 17号井戸全景  
(北より)



3. 4号土壤全景  
(西より)



1. 18号土壤全景  
(東より)



2. 27号土壤全景  
(東より)



3. 1号焼土遺構全景  
(北より)



1. 4号溝確認状況  
(南より)



2. 4号溝土層  
(A-A', 北より)



1. 4号溝土層  
(B-B', 北より)



2. 土師器甕A004出土状況  
(4号溝、西より)

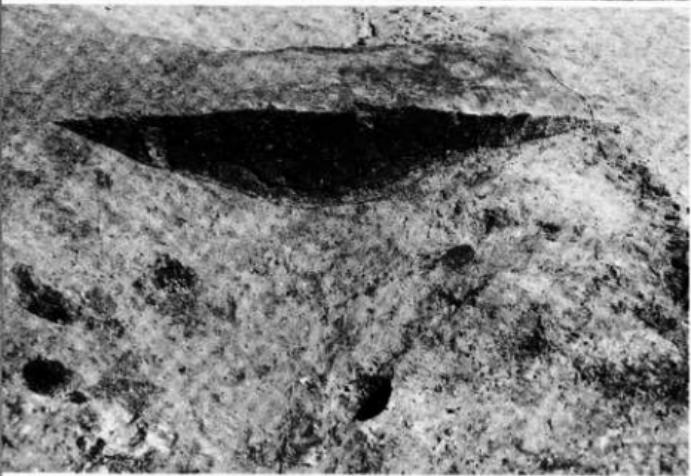


3. 土師器甕A009・A010  
出土状況 (4号溝、西より)





1. 土師質の土器 A101  
出土状況(4号溝、西より)



2. 6号溝A層土層  
(南より)

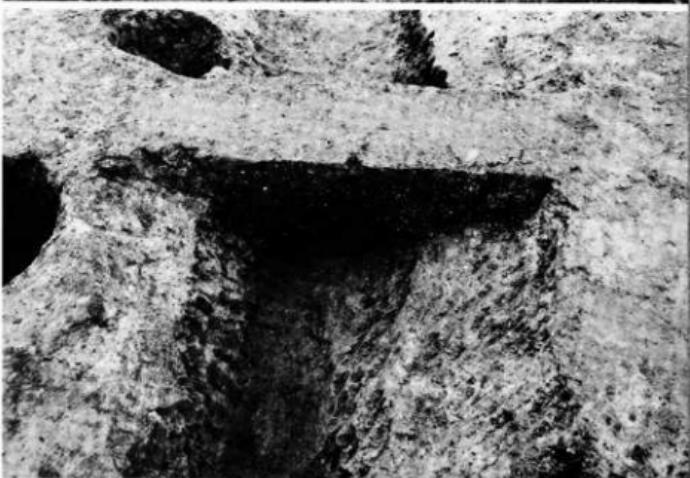


3. 6号溝B層土溝  
(南より)

1. 須恵器壺 A207・208  
出土状況(6号溝、北より)



2. 8号溝土層  
(東より)



3. 9号溝全景  
(東より)





A001



A002



A004



A101



A102



A006



A103



A007

A001	土	師	器	麥
A002	*		麥	
A004	*		麥	
A006	*		麥	
A007	*		麥	
A101	土師質の土器		麥	
A102	*		麥	
A103	*		麥	

図版12 土師器・土師質の土器



A203



A205



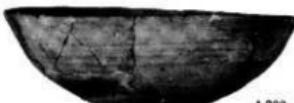
A206



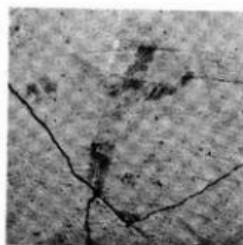
A209



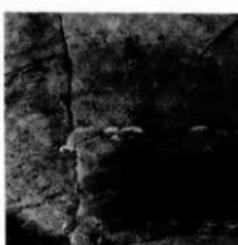
A207



A208



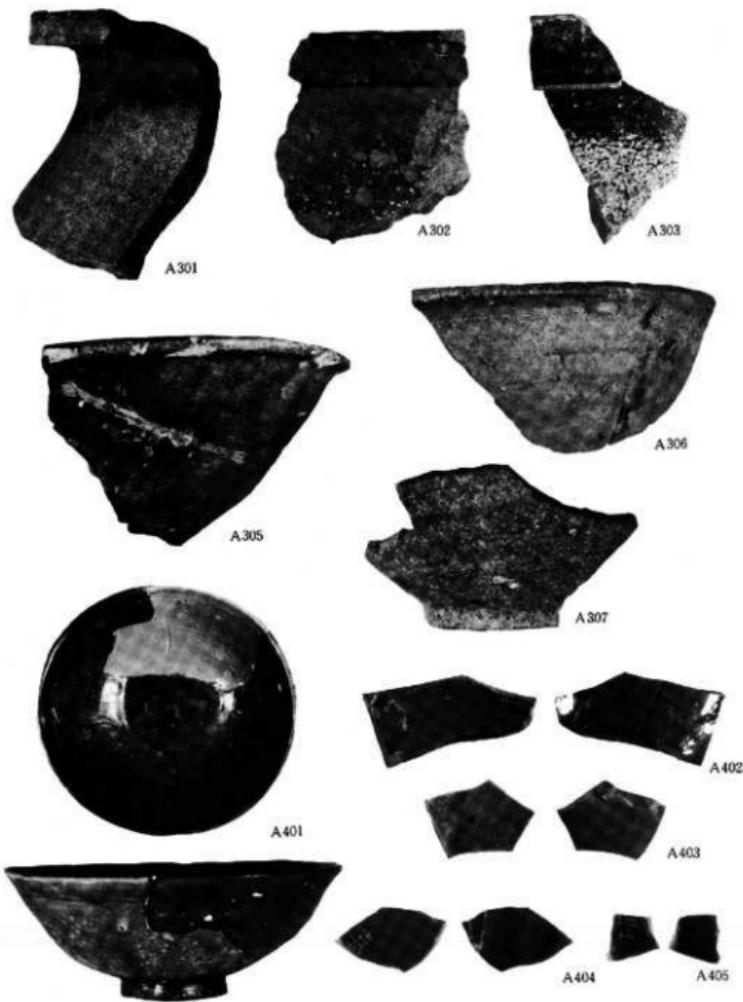
墨书「十」



A203 須惠器 長颈壺  
A205 + 壺  
A206 + 壺

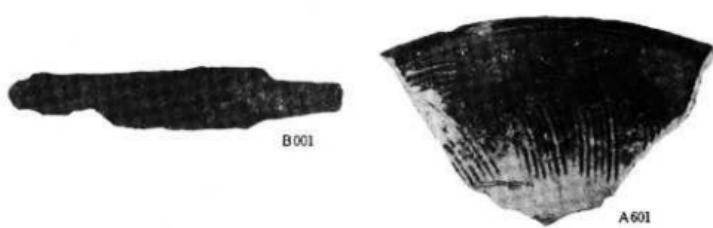
A207 須惠器 环 墨书「十」  
A208 + 环 + 「十」  
A209 + 环

圖版13 須 惠 器

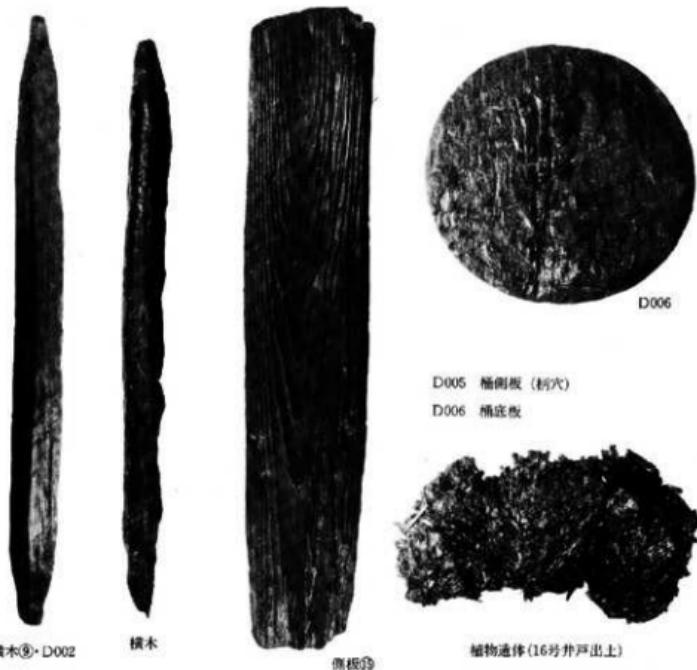


A301 中世陶器 瓢	A305 中世陶器 钵	A401 青磁碗(刻花花卉文)
A302 *	A306 *	A402 *
A303 *	A307 *	A403 青磁碗

图版14 中世陶器·青磁



図版15 瓦・近世陶器・金属製品・石製品



横木⑧・D002

横木

側板⑨

16号井戸棒材

図版16 木製品・植物遺体

## 職員錄

社会教育課

課長 水野 昌一  
主幹 松坂 昌一

文化財管理係

係	長	鈴	木	昭	三	郎	文	宏	一
主	查	鈴	木	高					
土	事	山	口	辺					

文化財調査係

(56.1.1採用)

## 仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物靈屋ドセコイヤ化石林調査報告書（昭和39年4月）  
第2集 仙台城（昭和42年3月）  
第3集 仙台市燕沢善寺横穴古墳群調査報告書（昭和35年3月）  
第4集 史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年3月）  
第5集 仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年8月）  
第6集 仙台市荒巣五本松森跡発掘調査報告書（昭和48年10月）  
第7集 仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年3月）  
第8集 仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年5月）  
第9集 仙台市桜岸町奈井寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年3月）  
第10集 仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年3月）  
第11集 史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年3月）  
第12集 史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年3月）  
第13集 南小泉遺跡 輪郭構造調査報告書一（昭和53年3月）  
第14集 果遺跡発掘調査報告書（昭和54年3月）  
第15集 史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年3月）  
第16集 六反田遺跡発掘調査（第2・3次）のあらまし（昭和54年3月）  
第17集 北星敷遺跡（昭和54年3月）  
第18集 桥江通路発掘調査報告書（昭和55年3月）  
第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年3月）  
第20集 史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年3月）  
第21集 仙台市開拓闢通跡調査報告書I（昭和55年3月）  
第22集 繰ヶ峯（昭和55年3月）  
第23集 年報 1（昭和55年3月）  
第24集 今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年8月）  
第25集 三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）  
第26集 史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）  
第27集 史跡陸奥国分寺跡昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）  
第28集 年報 2（昭和56年3月）  
第29集 鶴山遺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年3月）  
第30集 山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年3月）  
第31集 仙台市開拓闢通跡調査報告書II（昭和56年3月）  
第32集 清ノ原遺跡発掘調査報告書（昭和56年3月）

---

仙台市文化財調査報告書第32集

昭和56年度

### 鴻ノ巣遺跡

昭和56年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市宮城野区3-7-1  
仙台市教育委员会社会教育課

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市立町24-24 TEL 63-1166

---

